

県民医療意識調査報告書について

医療政策課

1 概要

県民の保健医療に関する実情や意見を的確に把握・集約し、第8次長野県保健医療計画に反映させるとともに、安全・安心で質の高い医療提供体制の構築に資するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査対象者

- (1) 調査対象者数 3,000人
- (2) 母集団 長野県内在住の満18歳以上の男女
- (3) 調査対象者の抽出方法

県内10圏域の調査対象者について、人口を基に按分し、選挙人名簿から無作為抽出。

医療圏	佐久	上小	諏訪	上伊那	飯伊	木曾	松本	大北	長野	北信
調査対象者	300	290	290	280	260	170	460	190	540	220

3 調査方法

調査対象者へ別紙調査票により回答を依頼し、回答結果からデータベースを作成してクロス集計による分析を実施。

4 調査期間

令和5年1月中旬から2月上旬

5 各医療圏の回答状況

医療圏	配布数	回答数	回答率
佐久	300	167	55.7%
上小	290	159	54.8%
諏訪	290	170	58.6%
上伊那	280	168	60.0%
飯伊	260	158	60.8%
木曾	170	106	62.4%
松本	460	245	53.3%
大北	190	98	51.6%
長野	540	325	60.2%
北信	220	121	55.0%
不明	-	6	-
合計	3,000	1,723	57.4%

県民医療意識調査
報告書

令和5年3月

長野県健康福祉部

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の対象	1
3. 調査期間	1
4. 調査方法	1
5. 調査実施機関	1
6. 調査項目	1
7. 回収結果	2
8. 標本の誤差	2
9. その他	2
II 調査結果	3
1. あなた自身について	3
2. 病気にかかった場合について	5
3. かかりつけの医師	19
4. かかりつけの歯科医師について	22
5. かかりつけの薬局について	25
6. 医療機関への受診について	28
7. 地域の医療体制について	32
8. 新型コロナウイルス感染症について	36
9. 人生の最終段階における医療について	38
医療に関する自由回答	41

I 調査の概要

1. 調査の目的

県民の保健医療に関する実態や意見を把握し、第8次長野県保健医療計画へ反映するとともに、地域医療介護総合確保基金事業の効率的な執行に活かし、安全で安心できる医療体制や質の高い医療提供体制の整備を図るための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の対象

18歳以上の長野県民 3,000名

(県内対象市町村の選挙人名簿より層化2段無作為抽出を実施)

3. 調査期間

令和5年1月

4. 調査方法

調査票送付によるアンケート方式

5. 調査実施機関

長野県 (委託先: 協同組合長野シーアイ開発センター)

6. 調査項目

回答者の属性

病気にかかった場合について

かかりつけの医師について

かかりつけの歯科医師について

かかりつけの薬局について

医療機関への受診について

地域の医療体制について

新型コロナウイルス感染症について

人生の最終段階における医療について

医療に関する自由回答

7. 回収結果

回収数 1,723 通

回収率 57.4%

[圏域別回答状況]

	発送数	回収数	回収率
佐久圏域	300	167	55.7%
上小圏域	290	159	54.8%
諏訪圏域	290	170	58.6%
上伊那圏域	280	168	60.0%
飯伊圏域	260	158	60.8%
木曾圏域	170	106	62.4%
松本圏域	460	245	53.3%
大北圏域	190	98	51.6%
長野圏域	540	325	60.2%
北信圏域	220	121	55.0%
不明	-	6	-
合計	3,000	1,723	57.4%

8. 標本の誤差

この調査の標本誤差は、次式によって得られる。ただし、信頼度は95%とする。

注) 信頼度 95% : 100 回同じ調査を実施したとき、概ね 95 回まではこの精度が得られることを示す。

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \cong 1.96 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

ただし、b : 標本誤差 (±小数ポイント)

N : 母集団 (人)

n : 標本数 (人)

P : 回答比率 (小数)

上式をもとに、本調査の標本誤差の早見表を掲げる。

回答比率と標本誤差 (信頼度 95%の場合)

回答比率 (P) 標本数 n (箇所、人)	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%
1,500	1.52	2.02	2.32	2.48	2.53
1,000	1.86	2.48	2.84	3.04	3.10
500	2.63	3.51	4.02	4.29	4.38
300	3.39	4.53	5.19	5.54	5.66

※上表は $(N-n)/(N-1) \cong 1$ として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

注) 表の見方 : 例えば、ある設問の回答者数が 1,500 人であり、その設問中のある選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも ±2.48%ポイント以内 (57.52~62.48%) である、と見ることができる。

9. その他

構成比の合計は、四捨五入の結果 100.0 にならない場合がある。また、複数回答の場合は、100.0 を超える場合がある。

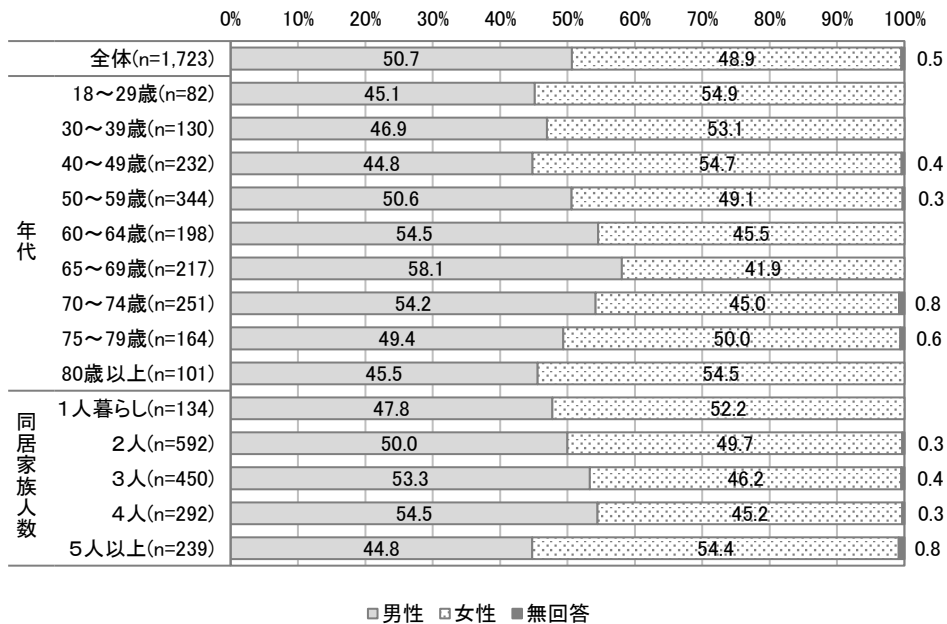
II 調査結果

1. あなた自身について

問1 あなたの性別を、お答えください。

回答者の性別は、「男性」(50.7%)、「女性」(48.9%)とも約5割となる。

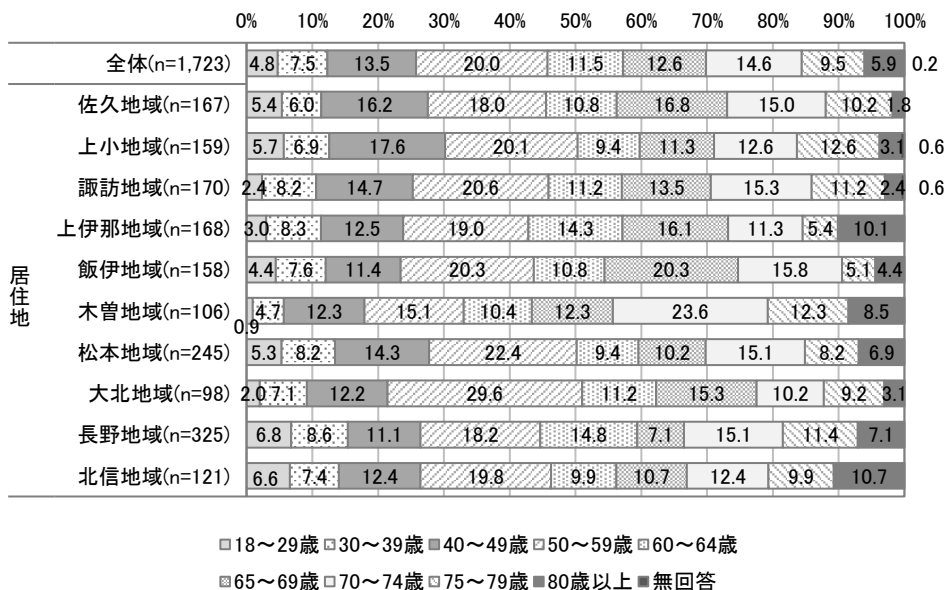
年代別にみると、50代から74歳以下では「男性」が5割を超え、それ以外の年代では「女性」が5割以上となっている。



問2 あなたの満年齢を、お答えください。

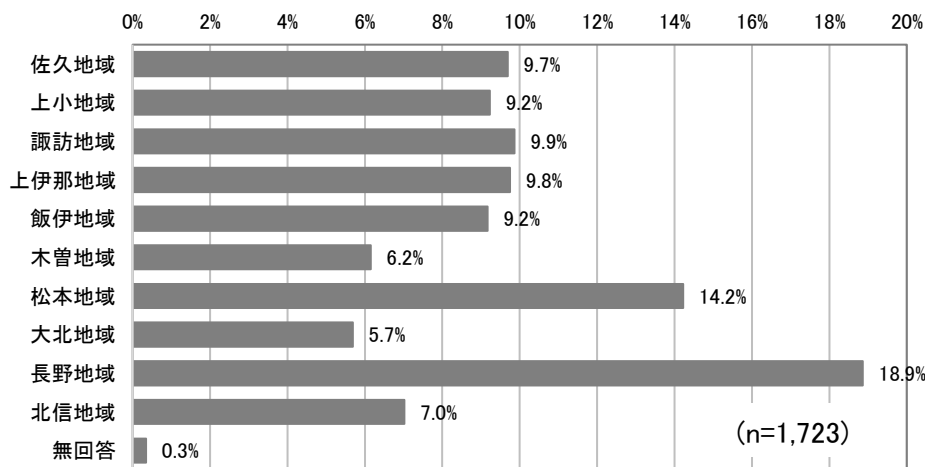
回答者の年代は、「50~59歳」(20.0%)が2割と最も多い。次いで、「70~74歳」(14.6%)、「40~49歳」(13.5%)と続いている。年代別でみると、70代(24.1%)と60代(24.1%)が同率で最も多く、次に、50代(20.0%)、40代(13.5%)となる。

居住地にみると、65歳以上の回答割合が5割を超えているのは、「木曽地域」(56.7%)となっている。



問3 あなたのお住まいの地域を、お答えください。

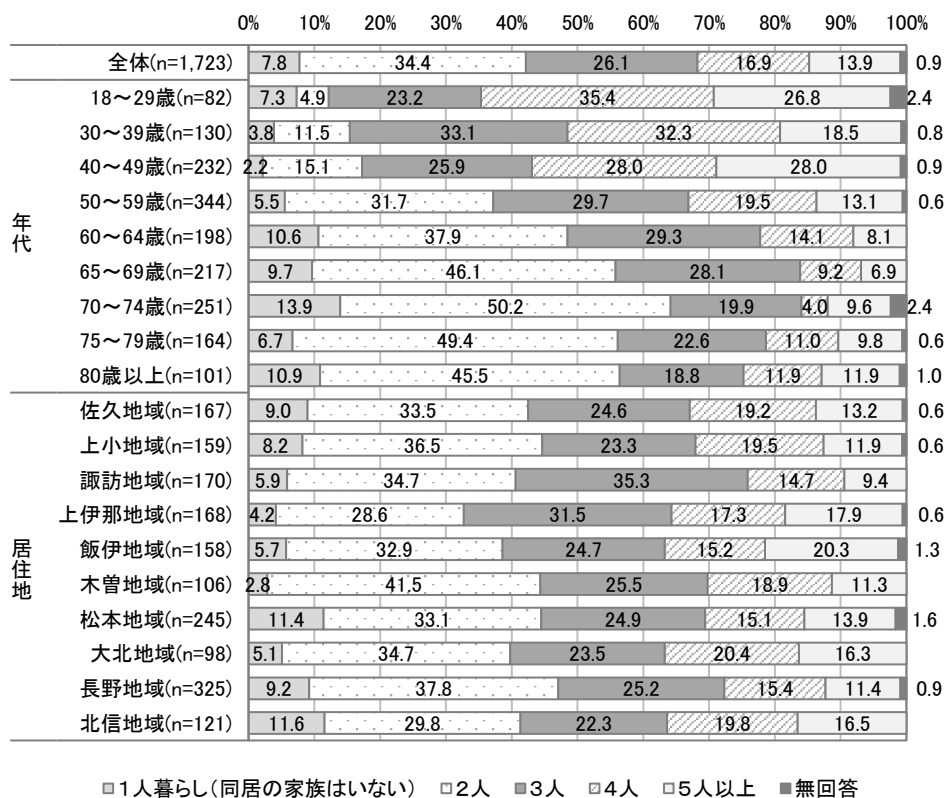
回答者の居住地は、「長野地域」(18.9%)が最も多い。次に、「松本地域」(14.2%)、「諏訪地域」(9.9%)と続いている。



問4 あなたご自身を含めた、同居家族の人数を、お答えください。

同居家族の人数は、「2人」(34.4%)が約3割と最も多い。次に、「3人」(26.1%)、「4人」(16.9%)と続いている。

居住地別にみると、「諏訪地域」、「上伊那地域」では「3人」という回答が最も多い。一方、その他の地域では「2人」という回答が最も多くなっている。特に、「木曾地域」(41.5%)では、4割を超えている。



2. 病気にかかった場合について

問5 あなたが、もし体調が少し悪くて医師にみてもらいたいときどうしますか。次の中から、1つお選びください。

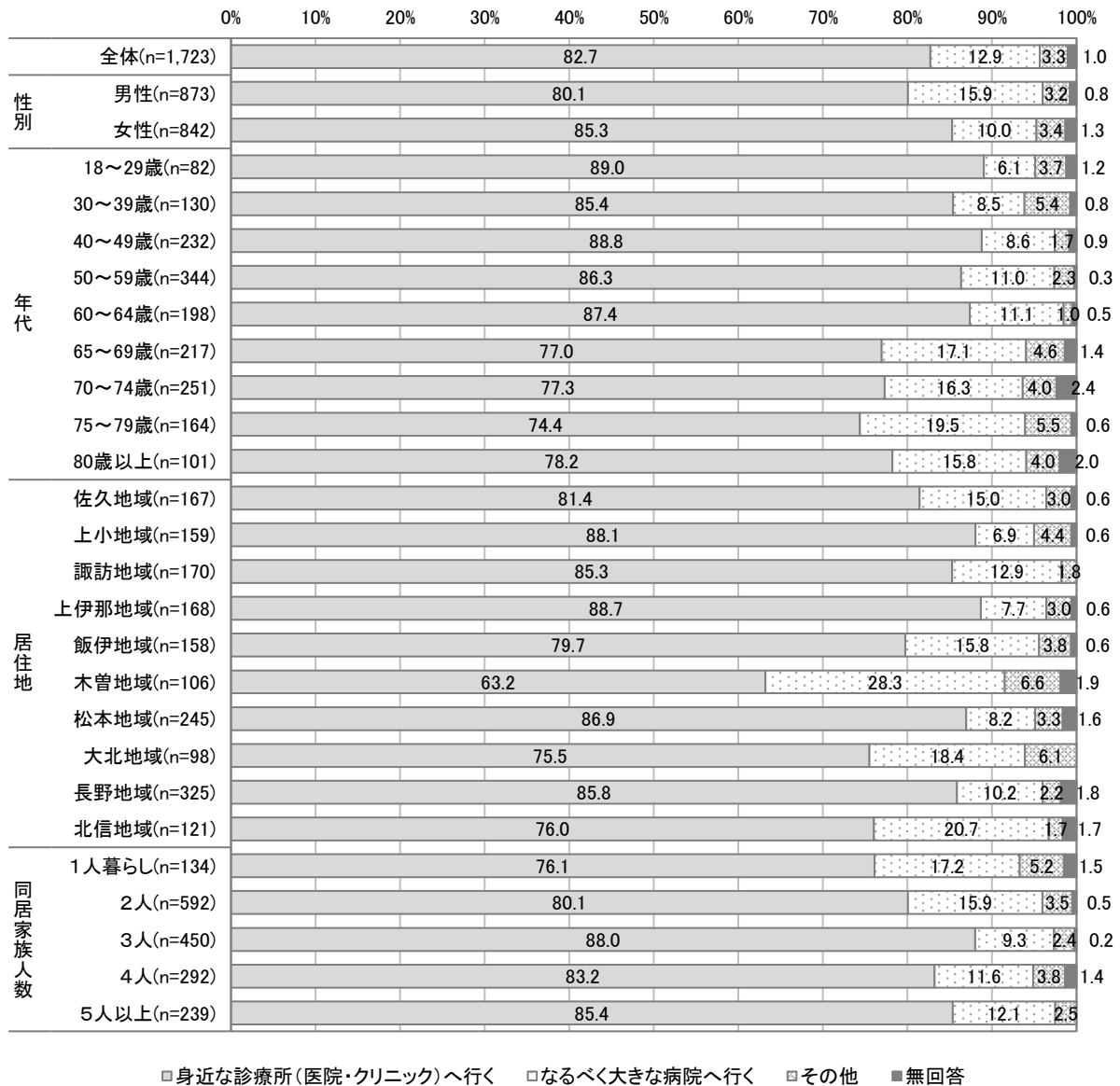
体調が少し悪く医師にみてもらいたい場合は、「身近な診療所（医院・クリニック）へ行く」（82.7%）が約8割と最も多い。次に、「なるべく大きな病院へ行く」（12.9%）となる。

性別にみると、「身近な診療所（医院・クリニック）へ行く」は、「男性」（80.1%）よりも「女性」（85.3%）の回答がやや高くなる。

年代別にみると、「身近な診療所（医院・クリニック）へ行く」は、64歳以下では8割を超えている。一方、65歳以上では7割台となり、「なるべく大きな病院へ行く」が約2割となる。

居住地別にみると、「木曽地域」を除き、「身近な診療所（医院・クリニック）へ行く」が約8割と最も多くなる。一方、「木曽地域」（28.3%）、「北信地域」（20.7%）では、「なるべく大きな病院へ行く」が2割を超えている。

同居家族人数別にみると、いずれも「身近な診療所（医院・クリニック）へ行く」が最も多いものの、「1人暮らし」（76.1%）では、7割台となっている。



問6 あなたは、長期間治療や管理を継続している持病がありますか。また、持病がある方は、どこでみてもらっていますか。次の中から、1つお選びください。

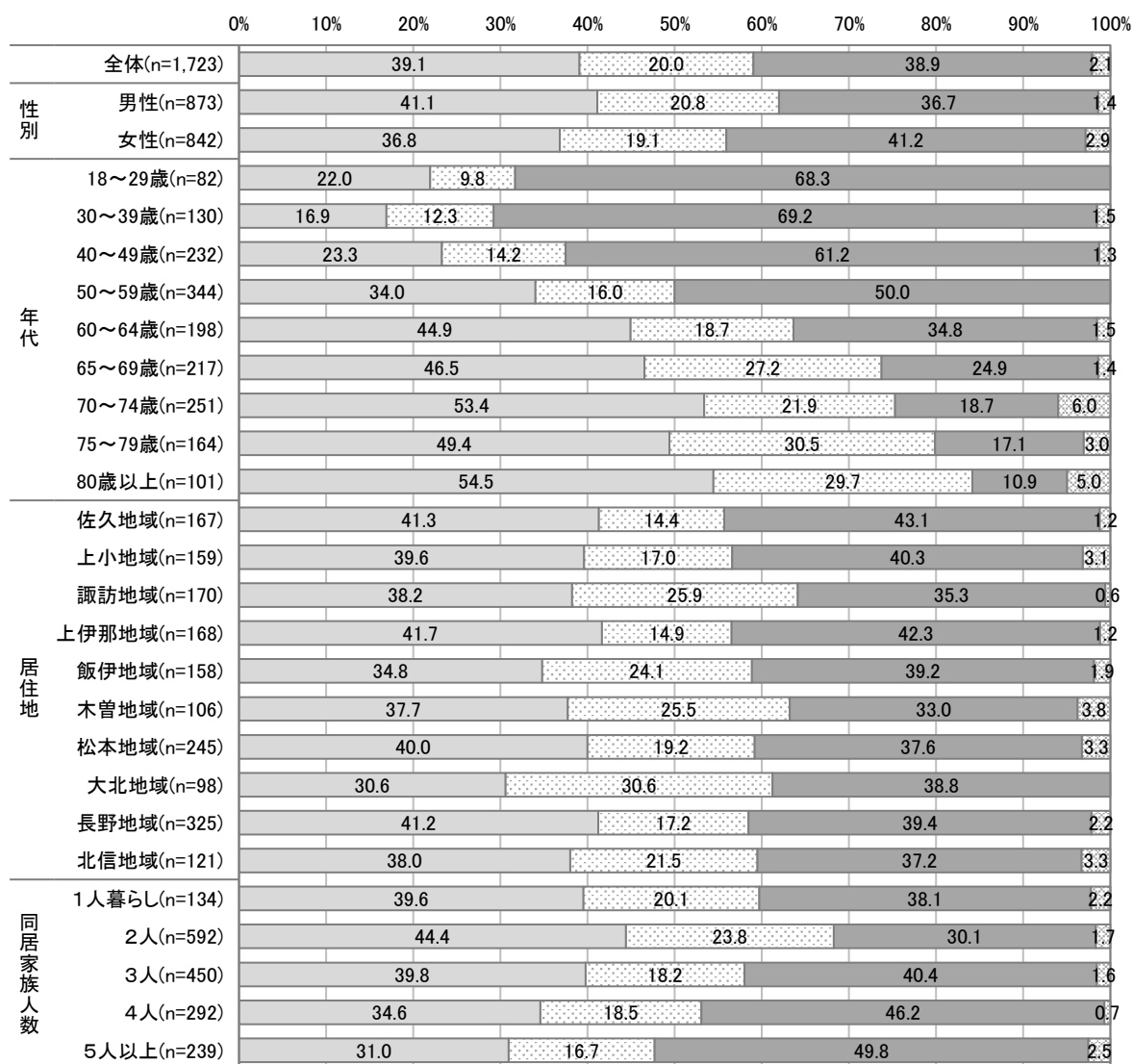
持病については、「身近な診療所（医院・クリニック）でみてもらっている」（39.1%）と「持病はない」（38.9%）が約4割となっている。「大きな病院でみてもらっている」（20.0%）は約2割となる。

性別にみると、「持病はない」は、「女性」（41.2%）が「男性」（36.7%）よりもやや高く、「身近な診療所（医院・クリニック）でみてもらっている」は、「男性」（41.1%）が「女性」（36.8%）よりもやや高くなる。

年代別にみると、「持病はない」は、30代以下で約7割となる。年代が上がるにつれ割合が低下し、「50～59歳」（50.0%）で5割、「70～74歳」（18.7%）で約2割、「80歳以上」（10.9%）では約1割となる。

居住地別にみると、「身近な診療所（医院・クリニック）でみてもらっている」と「大きな病院でみてもらっている」の回答割合の合計が6割を超えている地域は、「諏訪地域」（64.1%）、「木曾地域」（63.2%）、「大北地域」（61.2%）となっている。

同居家族人数別にみると、「身近な診療所（医院・クリニック）でみてもらっている」と「大きな病院でみてもらっている」の回答割合の合計が6割を超えているのは、「2人暮らし」（68.2%）となっている。



□ 身近な診療所（医院・クリニック）でみてもらっている □ 大きな病院でみてもらっている ■ 持病はない □ 無回答

問7 あなたは、「オンライン診療（電話診療を除く）」をご存じですか。また、利用したことはありますか。次の中から、1つお選びください。

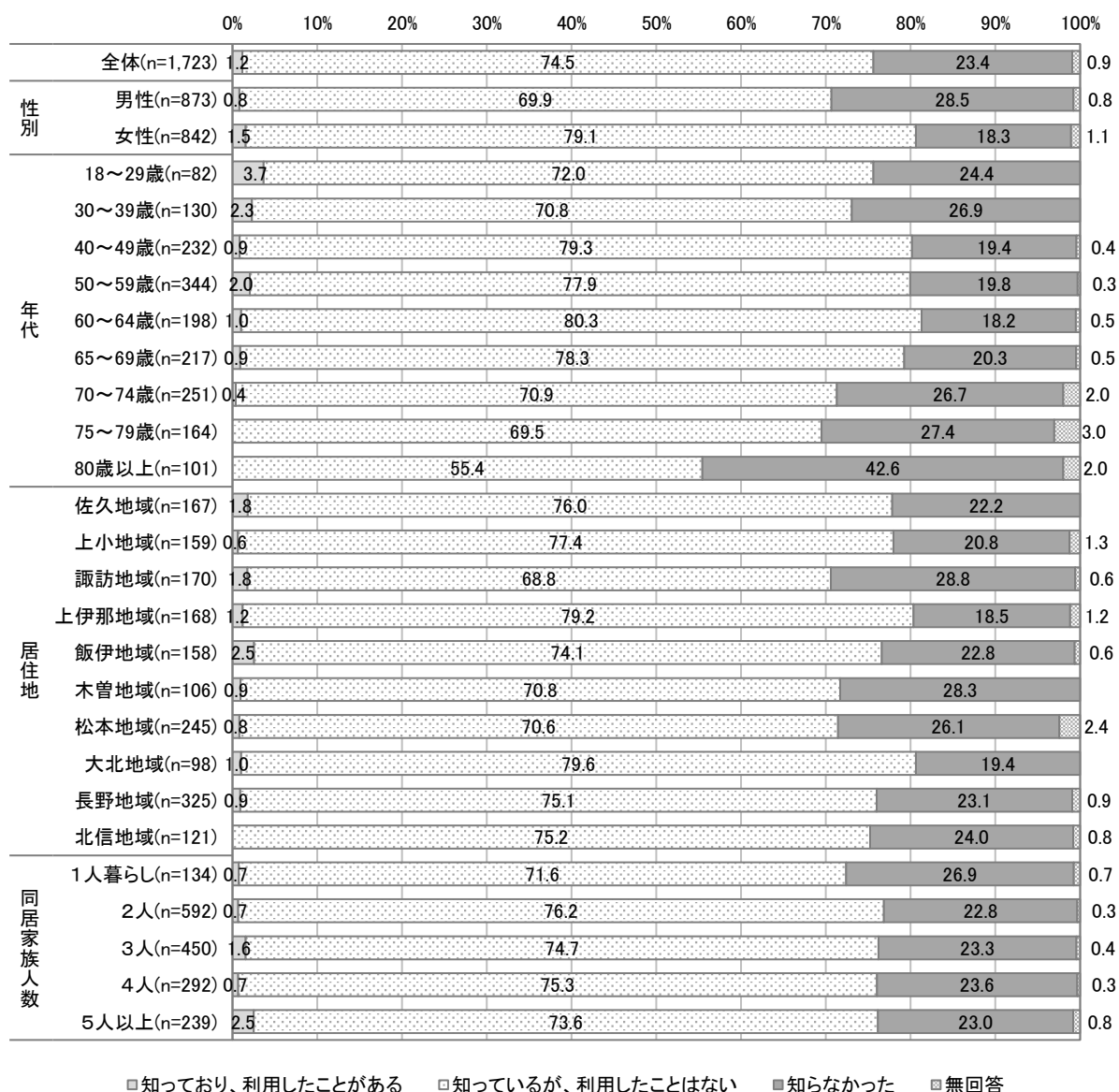
オンライン診療については、「知っているが、利用したことはない」（74.5%）が約7割と最も多い。次に、「知らなかった」（23.4%）、「知っており、利用したことがある」（1.2%）と続いている。「知っており、利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」の回答割合の合計となる認知度は、75.7%となる。

性別にみると、「知っており、利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」とも「女性」が「男性」よりも多くなっている。一方、「知らなかった」は、「男性」（28.5%）が「女性」（18.3%）よりも多い。

年代別にみると、認知度は、40代から69歳では約8割となる。一方、39歳以下と70代では7割台、「80歳以上」では5割台となっている。

居住地別にみると、認知度は、「上伊那地域」（80.4%）、「大北地域」（80.6%）で8割と、他の地域よりもやや高くなっている。

同居家族人数別にみると、「1人暮らし」で認知度が72.3%と、他よりもやや低くなっている。



問8 問7で「2 知っているが、利用したことはない」と回答した方にお尋ねします。

あなたが、オンライン診療を利用しない理由はなんですか。次の中から、1つお選びください。

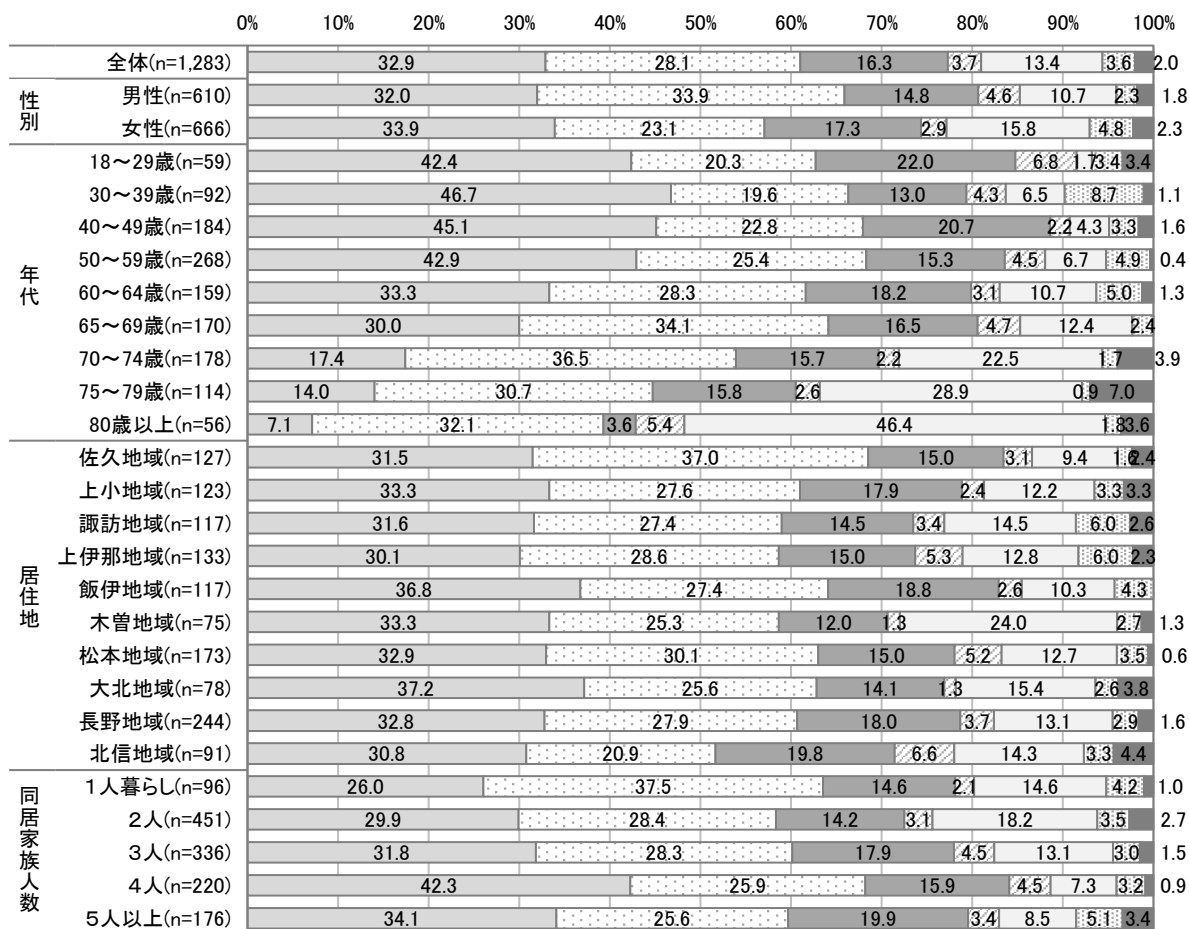
オンライン診療を知っているが利用したことはないと回答した理由については、「病気にならなかった等、医師の診察を受ける機会がなかった」(32.9%)が約3割と最も多い。次に、「オンラインではなく、直接対面で医師に診察してほしいから」(28.1%)、「普段通院している医療機関がオンライン診療に対応していないから」(16.3%)と続いている。

性別にみると、「女性」では「病気にならなかった等、医師の診察を受ける機会がなかった」(33.9%)が最も多く、「男性」では「オンラインではなく、直接対面で医師に診察してほしいから」(33.9%)と「病気にならなかった等、医師の診察を受ける機会がなかった」(32.0%)が3割を超えている。

年代別にみると、64歳以下では「病気にならなかった等、医師の診察を受ける機会がなかった」が、65歳から79歳までは「オンラインではなく、直接対面で医師に診察してほしいから」が、80歳以上では「オンライン診療に使う道具(スマートフォンやパソコン)を所有していない、又は使いこなせないから」が最も多くなっている。

居住地別にみると、「佐久地域」では「オンラインではなく、直接対面で医師に診察してほしいから」(37.0%)が約4割と、他の地域よりもやや高くなっている。

同居家族人数別にみると、「1人暮らし」では「オンラインではなく、直接対面で医師に診察してほしいから」(37.5%)が約4割と、他よりもやや高くなっている。



- 病気にならなかった等、医師の診察を受ける機会がなかった
- オンラインではなく、直接対面で医師に診察してほしいから
- 普段通院している医療機関がオンライン診療に対応していないから
- 自分の症状はオンライン診療には適さないと感じたから
- オンライン診療に使う道具(スマートフォンやパソコン)を所有していない、又は使いこなせないから
- その他
- 無回答

問9 あなたは、「原則として紹介状が必要な医療機関」についてご存じですか。次の中から1つお選びください。

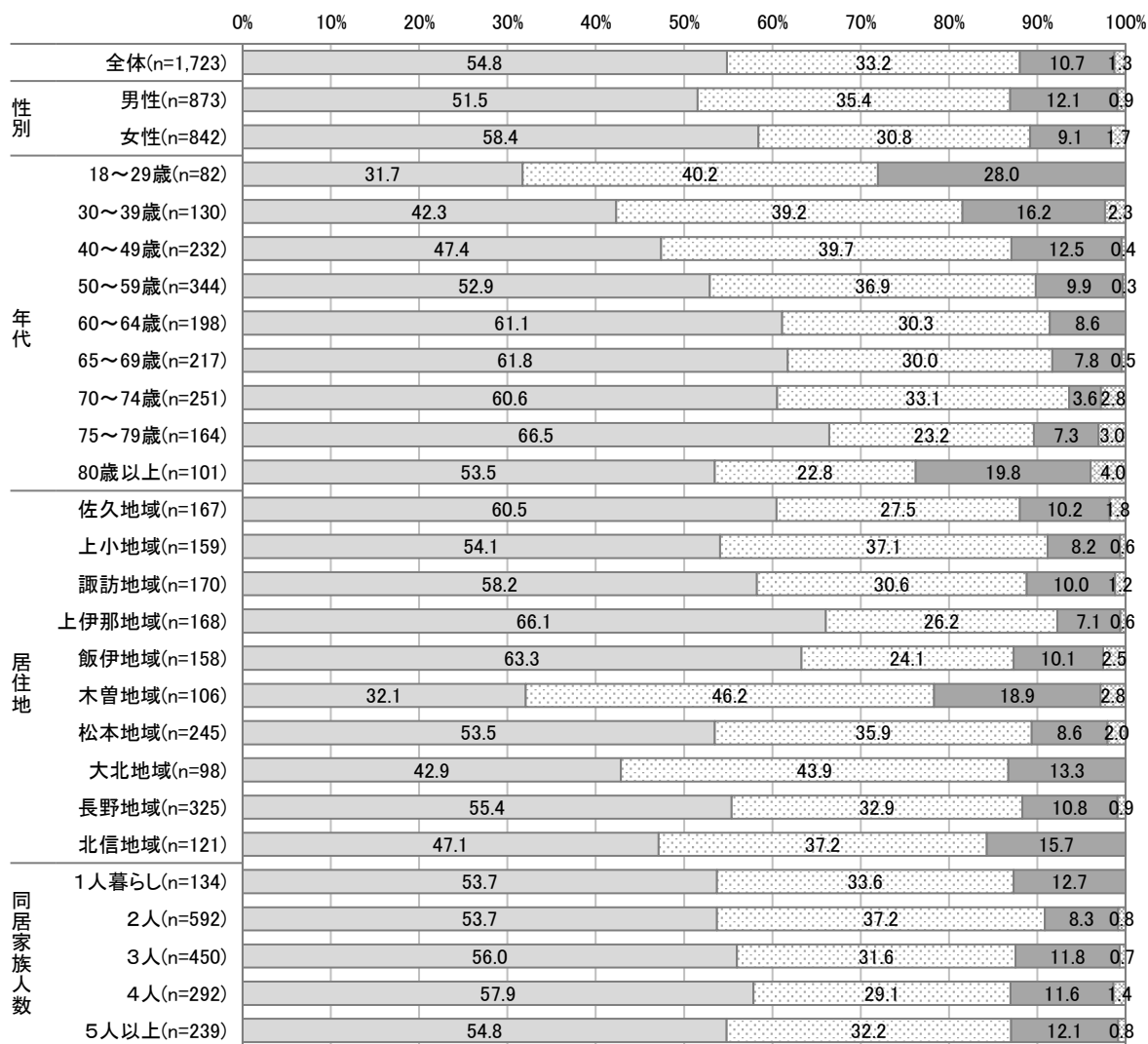
原則として紹介状が必要な医療機関については、「地域の病院のうち、どの病院が該当するか知っている」(54.8%)が約5割と最も多い。次に、「制度は知っているが、どの病院かは分からない」(33.2%)、「知らなかった」(10.7%)と続いている。「地域の病院のうち、どの病院が該当するか知っている」と「制度は知っているが、どの病院かは分からない」の回答割合の合計となる制度を知っているのは88.0%となる。

性別にみると、制度を知っている割合は男女とも約9割となる。一方、「地域の病院のうち、どの病院が該当するか知っている」は、「女性」(58.4%)が「男性」(51.5%)よりもやや高くなる。

年代別にみると、40歳から79歳では、制度を知っている割合は約9割となる。一方、「18～29歳」(71.9%)では約7割、「30～39歳」(81.5%)と「80歳以上」(76.3%)では約8割となっている。

居住地別にみると、制度を知っている割合は、「木曾地域」(78.3%)で約8割と、他の地域のよりもやや低くなる。一方、「制度は知っているが、どの病院かは分からない」は、「木曾地域」(46.2%)、「大北地域」(43.9%)で4割を超え、他の地域よりもやや高くなっている。

同居家族人数別にみると、差は少ないといえる。



- 地域の病院のうち、どの病院が該当するか知っている
- 制度は知っているが、どの病院かは分からない
- 知らなかった
- 無回答

問10 あなたは、過去1年以内に「原則として紹介状が必要な医療機関」に紹介状を持たずに初診で受診したことがありますか。次の中から1つお選びください。

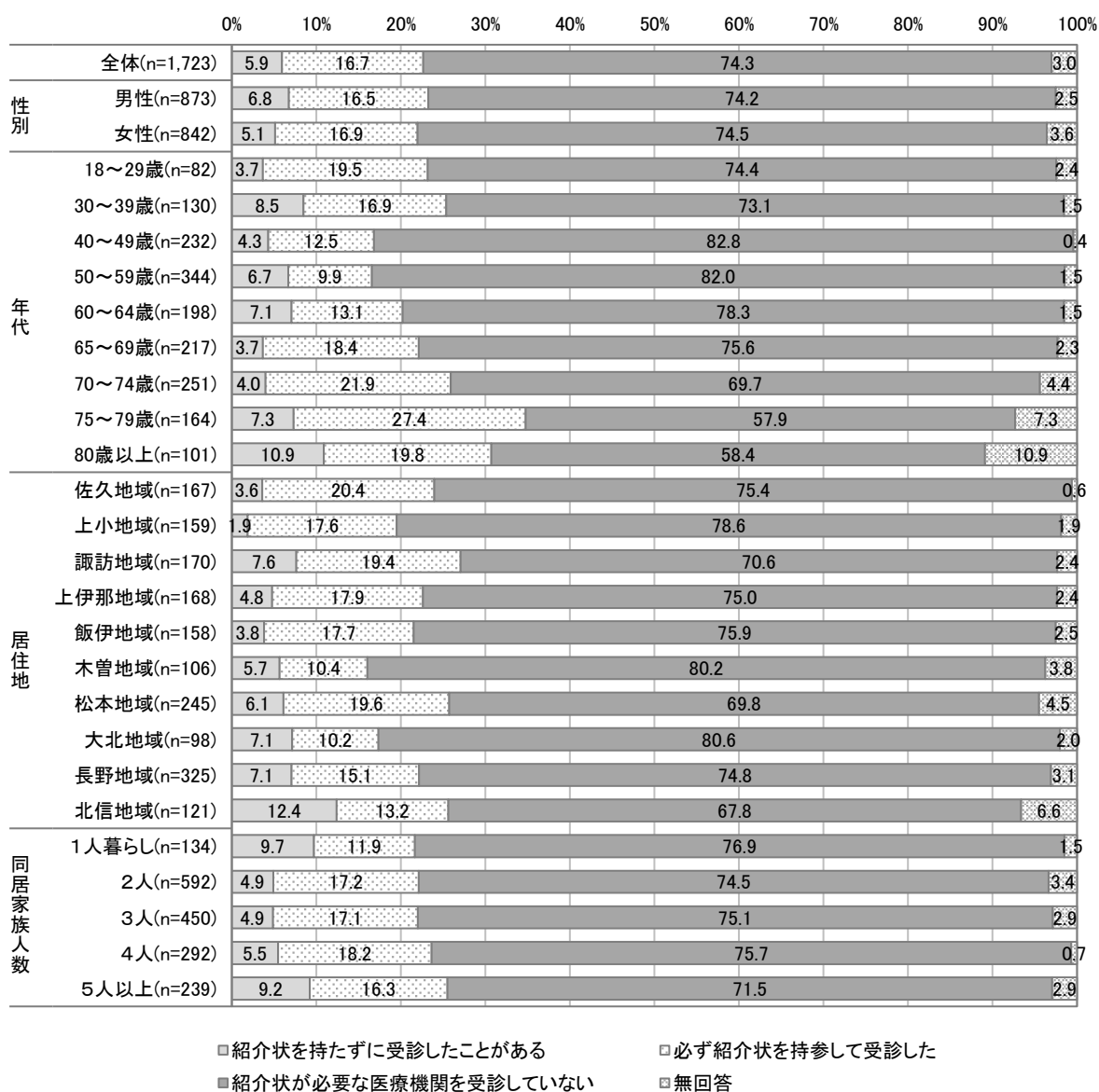
過去1年以内に「原則として紹介状が必要な医療機関」に紹介状を持たずに初診で受診したことについては、「紹介状が必要な医療機関を受診していない」(74.3%)が約7割と最も多い。次に、「必ず紹介状を持参して受診した」(16.7%)、「紹介状を持たずに受診したことがある」(5.9%)と続いている。

性別にみると、差は少ないといえる。

年代別にみると、「必ず紹介状を持参して受診した」は、70代では2割を超えている。また、「18～29歳」(19.5%)、「30～39歳」(16.9%)、「65～69歳」(18.4%)、「80歳以上」(19.8%)でも約2割となっている。

居住地別にみると、「必ず紹介状を持参して受診した」は、「木曾地域」(10.4%)、「大北地域」(10.2%)、「北信」(13.2%)で約1割となり、他の地域では約2割となっている。

同居家族人数別にみると、「必ず紹介状を持参して受診した」は、「1人暮らし」(11.9%)で約1割となり、他は約2割となっている。



問 10 あなたは、過去1年以内に「原則として紹介状が必要な医療機関」に紹介状を持たずに初診で受診したことがありますか。次の中から1つお選びください。

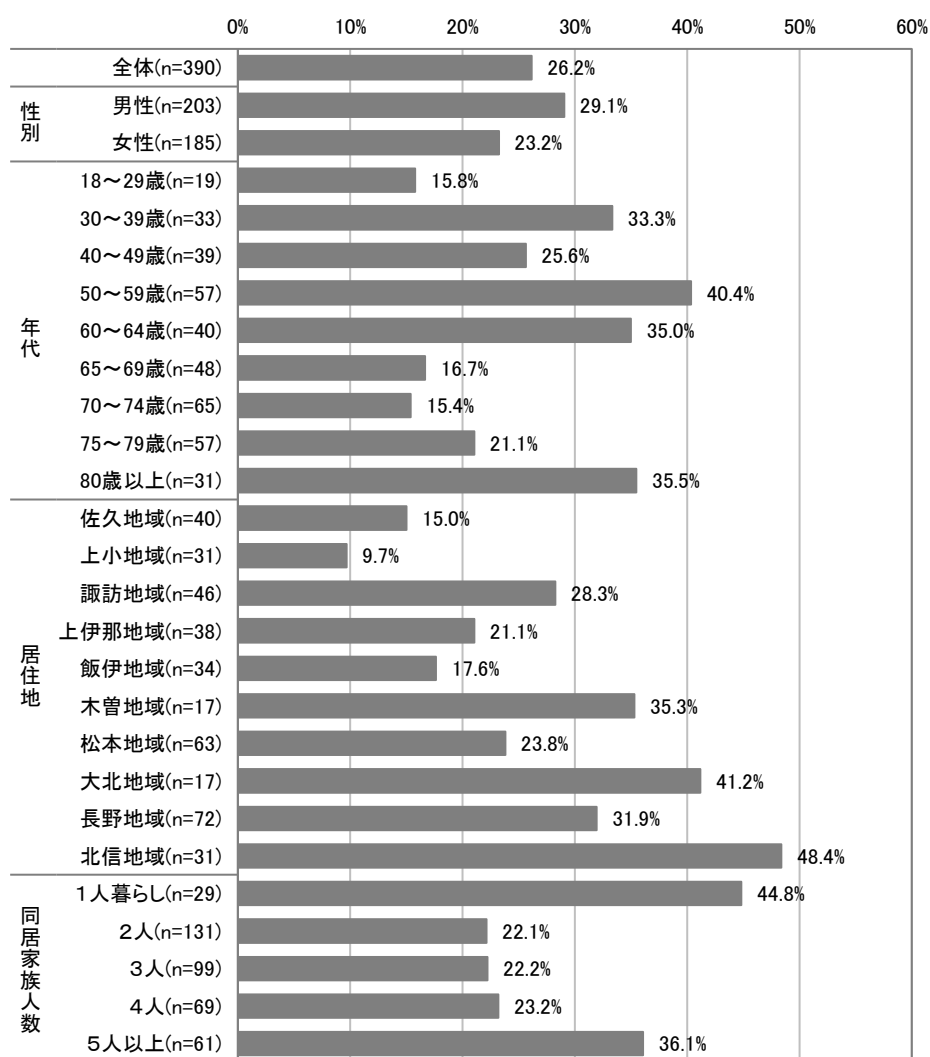
「紹介状を持たずに受診したことがある」と「必ず紹介状を持参して受診した」を合計すると、過去1年以内に「原則として紹介状が必要な医療機関」に初診で受診したと回答した方となる。そのうち、「紹介状を持たずに受診したことがある」と回答した割合を求めると、全体で26.2%となる。

性別にみると、「男性」(29.1%)は「女性」(23.2%)よりもやや高い。

年代別にみると、「30～39歳」(33.3%)、「50～59歳」(40.4%)、「60～64歳」(35.0%)、「80歳以上」(35.5%)で3割を超えている。

居住地別にみると、「木曾地域」(35.3%)、「大北地域」(41.2%)、「長野地域」(31.9%)、「北信地域」(48.4%)で3割を超えている。

同居家族人数別にみると、「1人暮らし」(44.8%)、「5人以上」(36.1%)で3割を超えている。

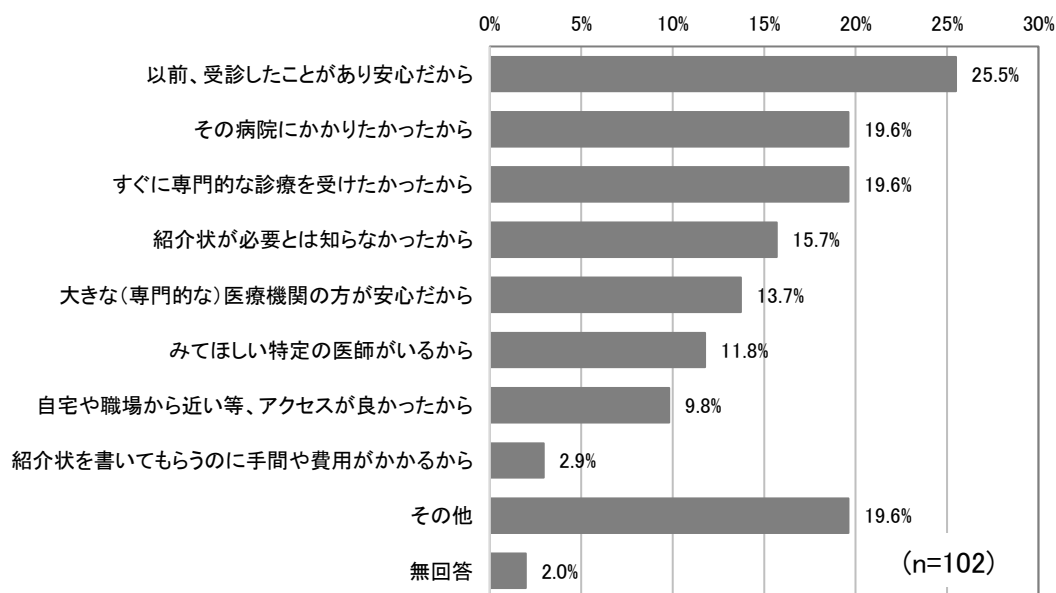


「紹介状を持たずに受診したことがある」と回答した割合

問 11 問 10 で「1 紹介状を持たずに受診したことがある」と回答した方にお尋ねします。
 紹介状を持たずに受診した理由について、次の中から2つまでお選びください。

紹介状を持たずに受診したことがある方の理由については、「以前、受診したことがあり安心だから」(25.5%) が約3割と最も多い。次に、「その病院にかかりたかったから」(19.6%)、「すぐに専門的な診療を受けたかったから」(19.6%)と「その他」(19.6%)が同率で続いている。

回答数が限られることから、属性による比較は難しい。



問 12 通院時の移動手段として、主に利用するものは何ですか。また、通院時間はどの程度かかりますか。次の中から、それぞれ1つお選びください。

【移動手段についてお選びください。】

通院時の移動の手段は、「自家用車」(90.3%)が9割と最も多い。次いで、「自転車・徒歩」(4.8%)、「無回答」(2.0%)、「公共交通機関」(1.6%)と続いている。「自家用車」を除いた回答を積み上げたグラフが下図となる。

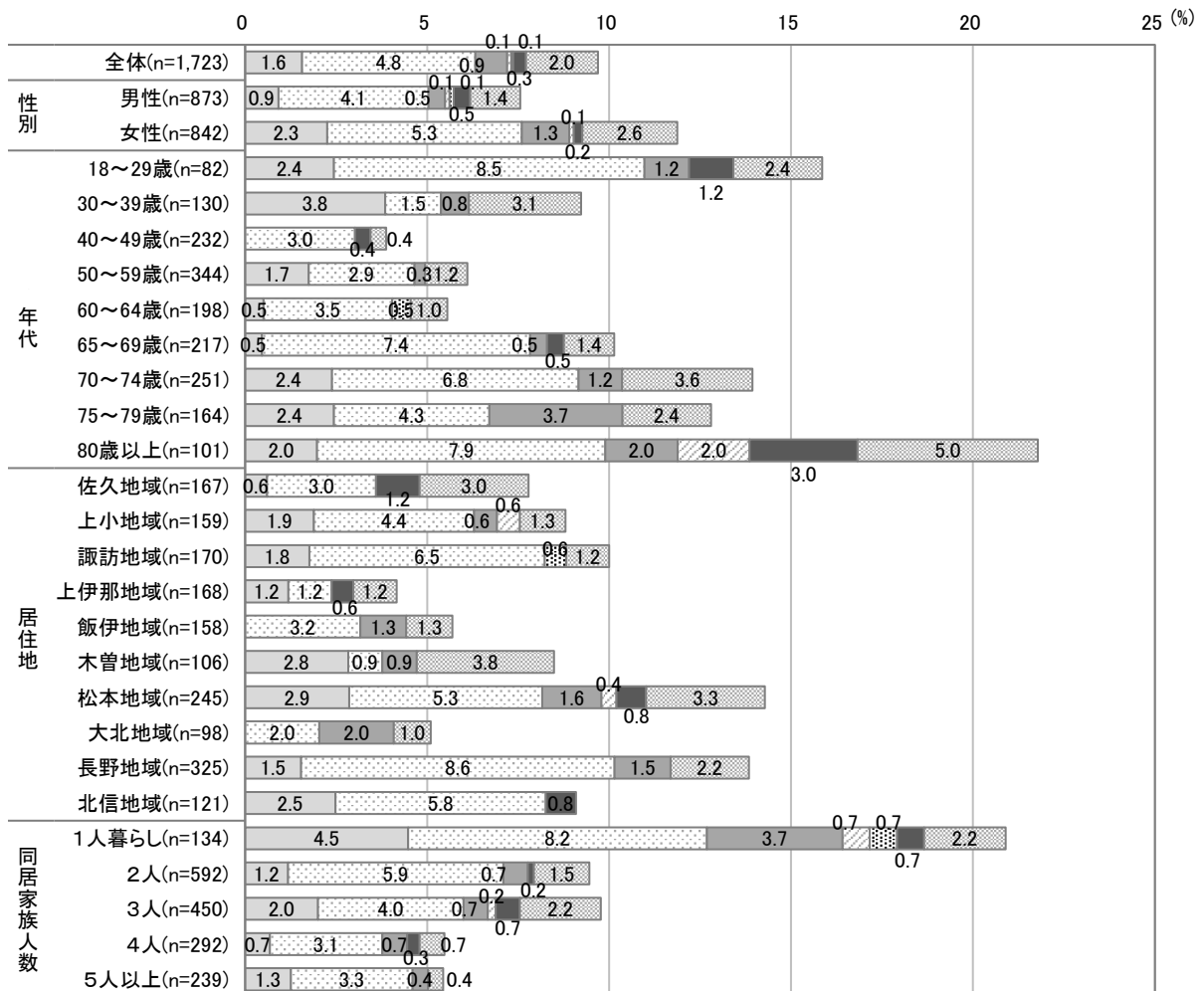
性別にみると、「自転車・徒歩」は、「女性か」が「男性」よりもやや高くなっている。

年代別にみると、「80歳以上」では、「自家用車」以外を利用している割合が高くなっており、「自転車・徒歩」(7.9%)、「無回答」(5.0%)、「移動手段がなく困っている」(3.0%)となる。

居住地別にみると、「自家用車」以外を利用している割合が、「上伊那地域」(4.2%)、「飯伊地域」(5.8%)、「大北地域」(5.0%)で5%前後と、他の地域よりもやや低くなっている。

同居家族人数別にみると、「1人暮らし」では、「自家用車」以外を利用している割合(20.7%)が2割台となり、「自転車・徒歩」(8.2%)、「公共交通機関」(4.5%)、「タクシー」(3.7%)となっている。

【自家用車以外の回答状況】



- 公共交通機関
- 自転車・徒歩
- タクシー
- 移動手段がないので往診にきてほしい
- ▨ 移動手段がないのでオンライン診療を活用したい
- 移動手段がなく困っている
- 無回答

問 12 通院時の移動手段として、主に利用するものは何ですか。また、通院時間はどの程度かかりますか。次の中から、それぞれ1つお選びください。

【通院時間についてお選びください。】

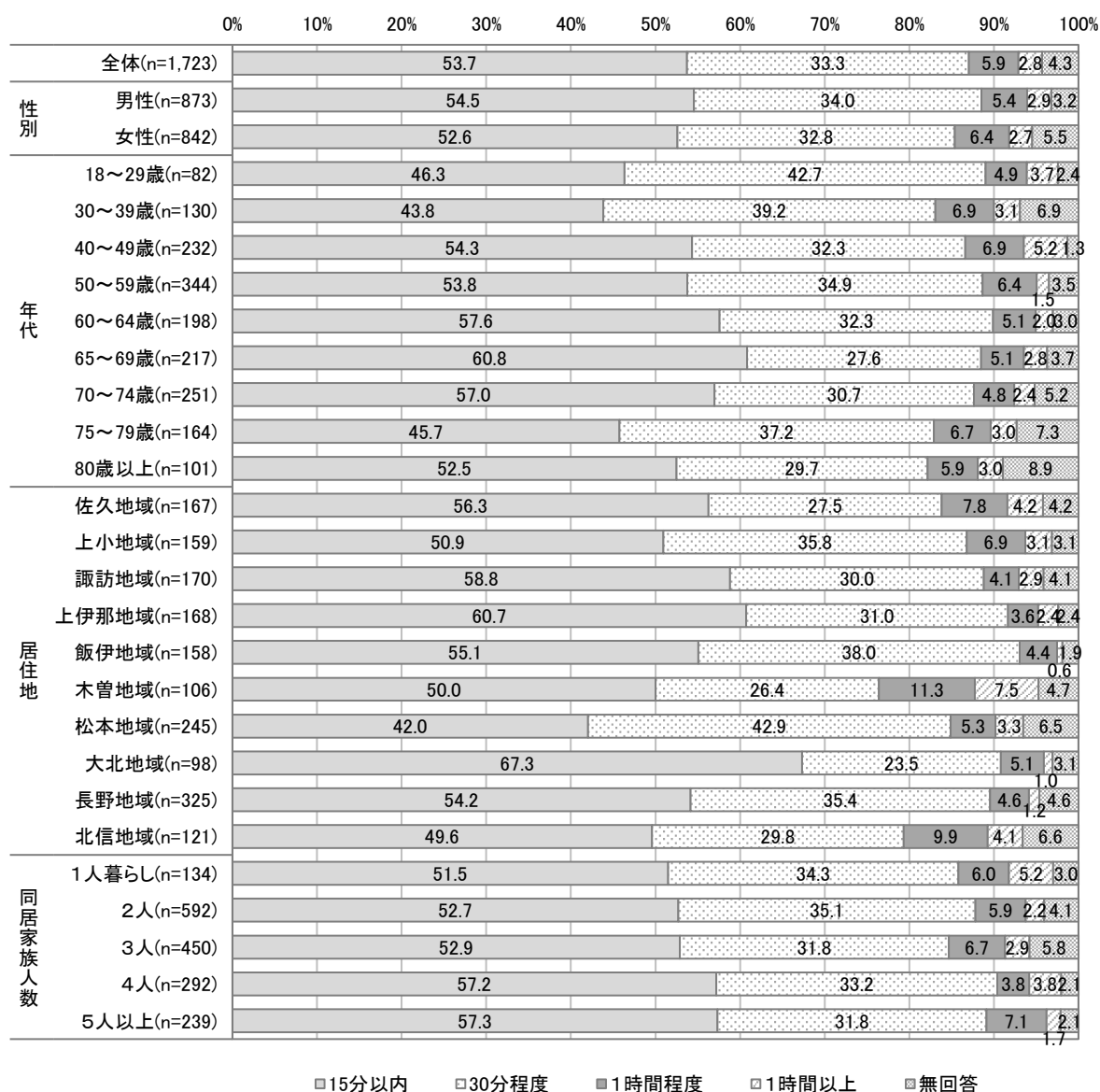
通院時間は、「15分以内」(53.7%)が約5割と最も多い。次に、「30分程度」(33.3%)、「1時間程度」(5.9%)と続いている。

性別にみると、差は少ないといえる。

年代別にみると、「15分以内」は、40歳から74歳と「80歳以上」で5割を超えている。一方、39歳以下と「75～79歳」で4割台となっている。

居住地別にみると、「松本地域」では「30分程度」(42.9%)と「15分以内」(42.0%)がほぼ同じ割合となっている。他の地域では、「15分以内」が5割を超え、最も多い回答となっている。一方、「1時間程度」は、「木曽地域」(11.3%)、「北信地域」(9.9%)で10%前後と、他の地域よりもやや高くなっている。

同居家族人数別にみると、大きな差はないといえる。



問 13 過去1年間に、あなたやご家族が、休日や夜間など、医療機関が診察していない時間帯に急な病気になったことがありますか。

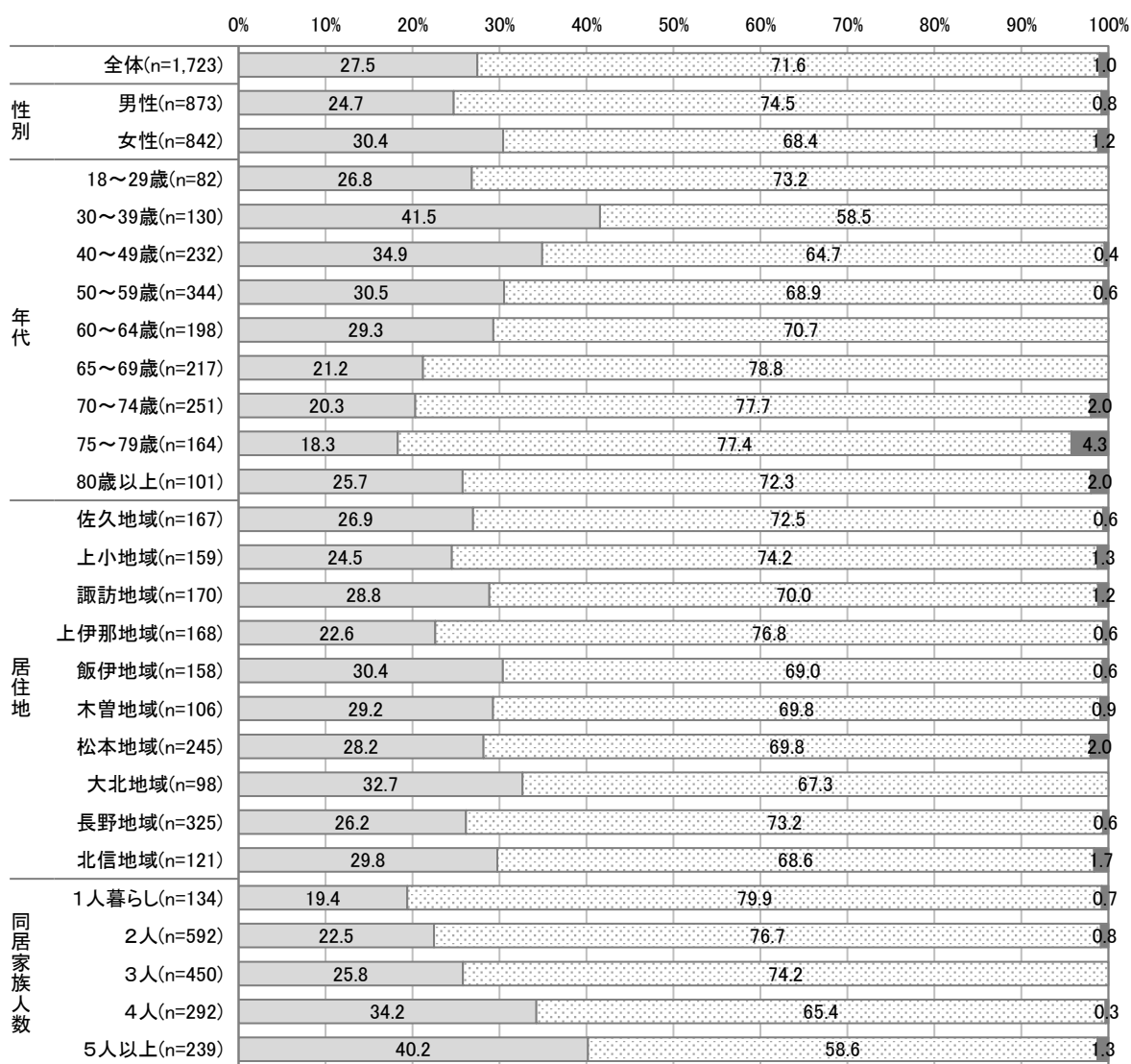
過去1年間に、自身や家族が、休日や夜間など、医療機関が診察していない時間帯に急な病気になったかについては、「ない」(71.6%)が約7割、「ある」(27.5%)が約3割となる。

性別にみると、「ある」は、「女性」(30.4%)が「男性」(24.7%)よりもやや高い。

年代別にみると、30歳から59歳で、「ある」が3割を超えている。特に、「30～39歳」(41.5%)では4割を超えている。

居住地別にみると、大きな差は少ないといえる。

同居家族人数別にみると、3人以下では「ある」は3割に満たないものの、「4人」(34.2%)では約3割、「5人以上」(40.2%)では4割となっている。



□ある □ない ■無回答

問 14 問 13 で「1 ある」と回答した方にお尋ねします。

その時どのように対応されましたか。次の中から、2つまでお選びください。

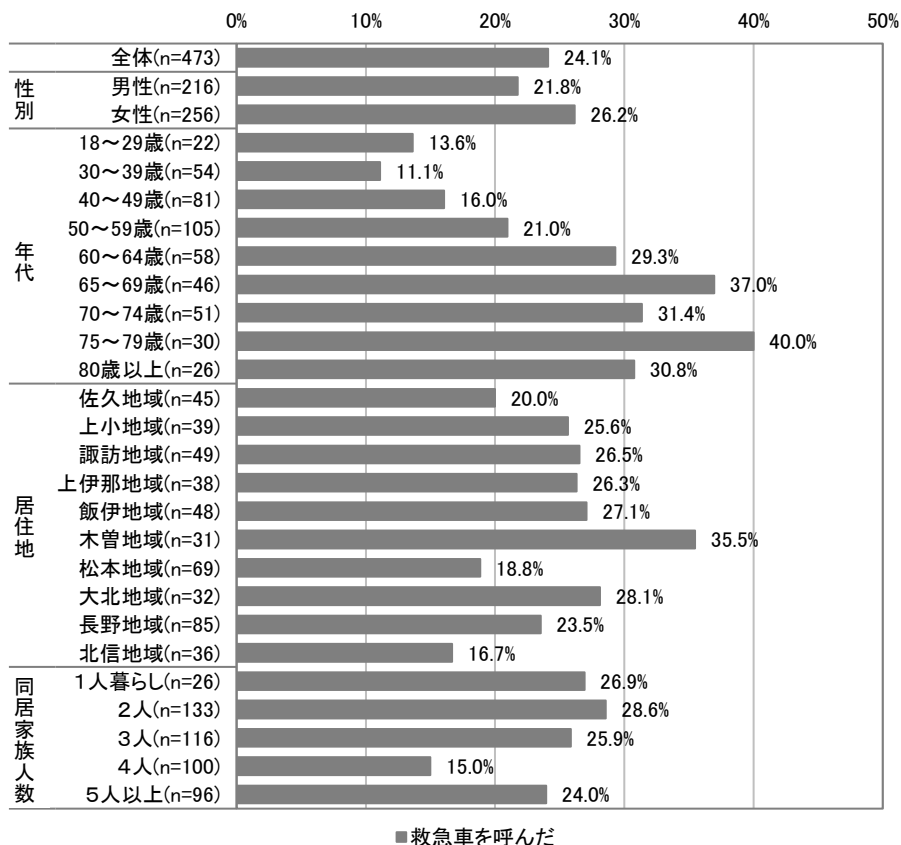
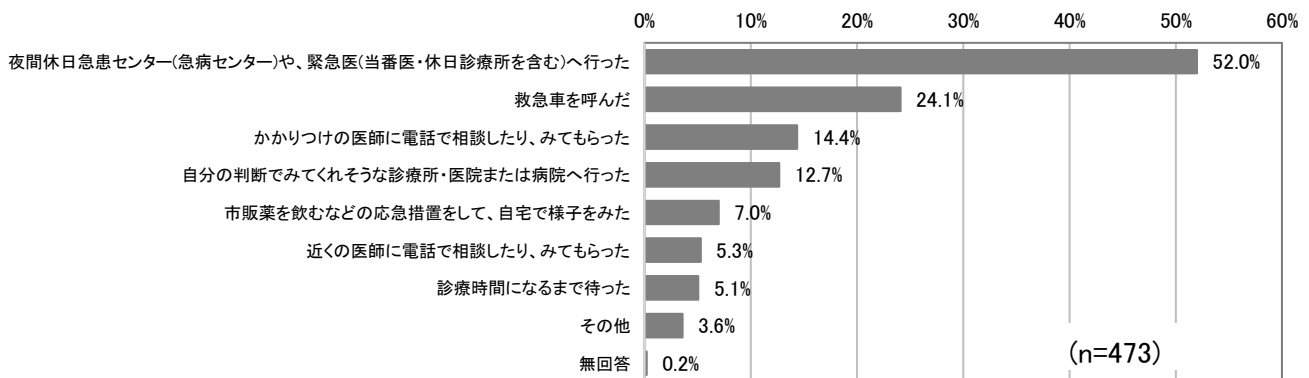
過去1年間に、自身や家族が、休日や夜間など、医療機関が診察していない時間帯に急な病気になったことがある方にその時の対応を伺うと、「夜間休日急患センター(急病センター)や、緊急医(当番医・休日診療所を含む)へ行った」(52.0%) が約5割と最も多い。次に、「救急車を呼んだ」(24.1%)、「かかりつけの医師に電話で相談したり、みてもらった」(14.4%)、「自分の判断でみてくれそうな診療所・医院または病院へ行った」(12.7%)と続いている。

性別にみると、「救急車を呼んだ」は、男女とも差が少ない。

年代別にみると、60歳以上で、「救急車を呼んだ」が約3割以上となっている。

居住地別にみると、「木曽地域」(35.5%)で、「救急車を呼んだ」が3割を超えている。

同居家族人数別にみると、「4人」(15.0%)では、「救急車を呼んだ」が1割台となっている。



問15 医療に関する相談窓口として県庁や保健福祉事務所（保健所）に「医療安全支援センター」や、休日・夜間の急な子どもの病気にアドバイスする「小児救急電話相談（#8000）」、緊急に精神科医療・相談が必要になったときの相談電話が設置されています。次の中から、ご存じの相談窓口を全てお選びください。

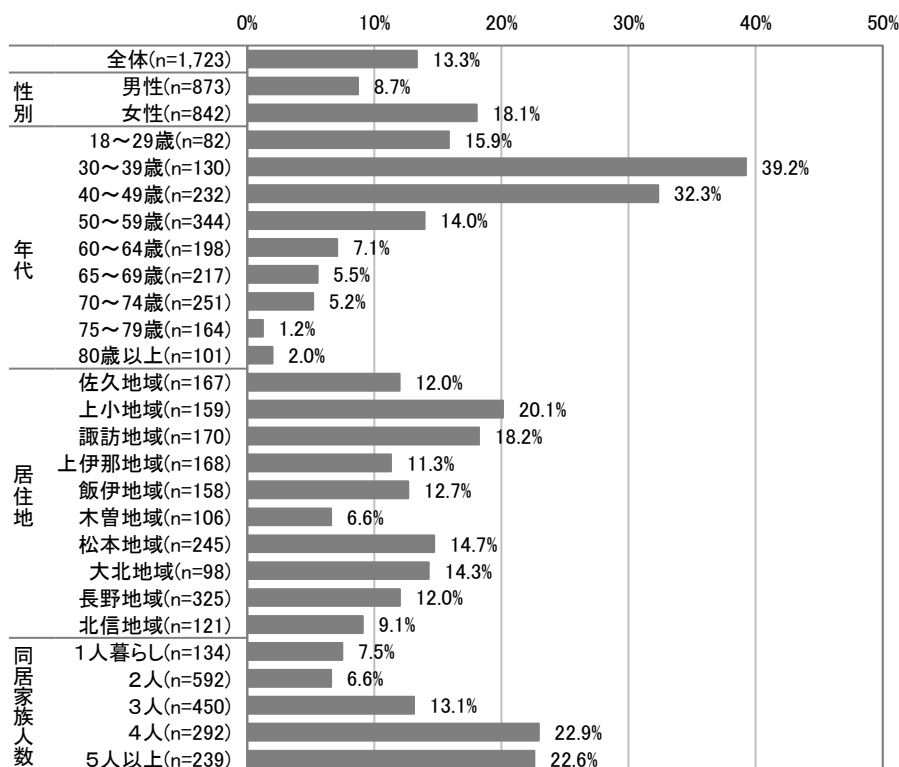
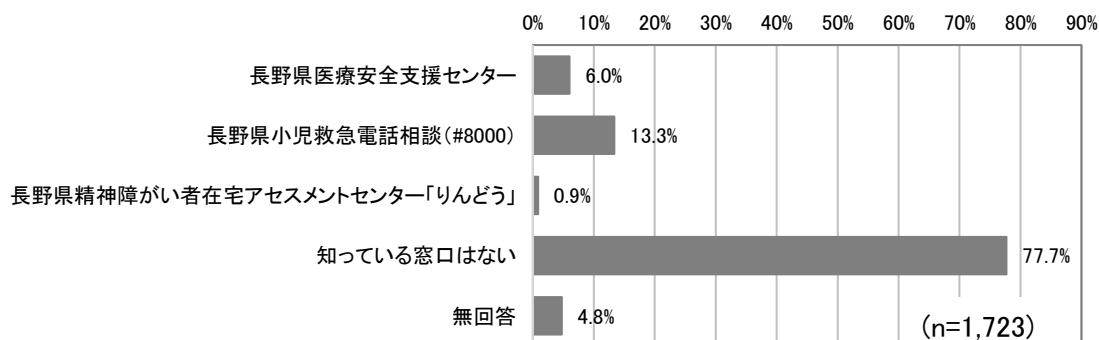
相談窓口については、「知っている窓口はない」（77.7%）が約8割となっている。一方、知っている相談窓口としては、「長野県小児救急電話相談（#8000）」（13.3%）、「長野県医療安全支援センター」（6.0%）、「長野県精神障がい者在宅アセスメントセンター「りんどう」（0.9%）となる。

性別にみると、「長野県小児救急電話相談（#8000）」は、「女性」（18.1%）が「男性」（8.7%）よりも知っている割合が高くなる。

年代別にみると、30歳から49歳では、「長野県小児救急電話相談（#8000）」を知っている割合が3割を超えている。

居住地別にみると、「上小地域」（20.1%）と「諏訪地域」（18.2%）では、「長野県小児救急電話相談（#8000）」を知っている割合が約2割となっている。

同居家族人数別にみると、4人以上で、「長野県小児救急電話相談（#8000）」を知っている割合が約2割となっている。

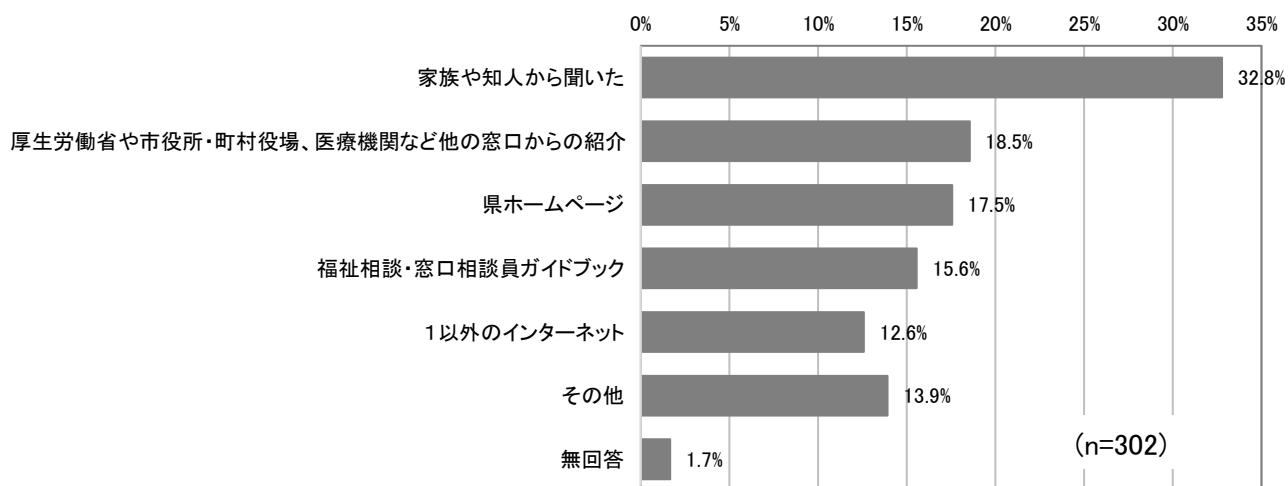


■長野県小児救急電話相談（#8000）

問16 問15でご存じの相談窓口があった方にお尋ねします。

相談窓口について、どのようにお知りになりましたか。次の中から、3つまでお選びください。

知っている相談窓口をどのようにして知ったかについては、「家族や知人から聞いた」(32.8%)が約3割と最も多い。次に、「厚生労働省や市役所・町村役場、医療機関など他の窓口からの紹介」(18.5%)、「県ホームページ」(17.5%)、「福祉相談・窓口相談員ガイドブック」(15.6%)と続いている。



3. かかりつけの医師

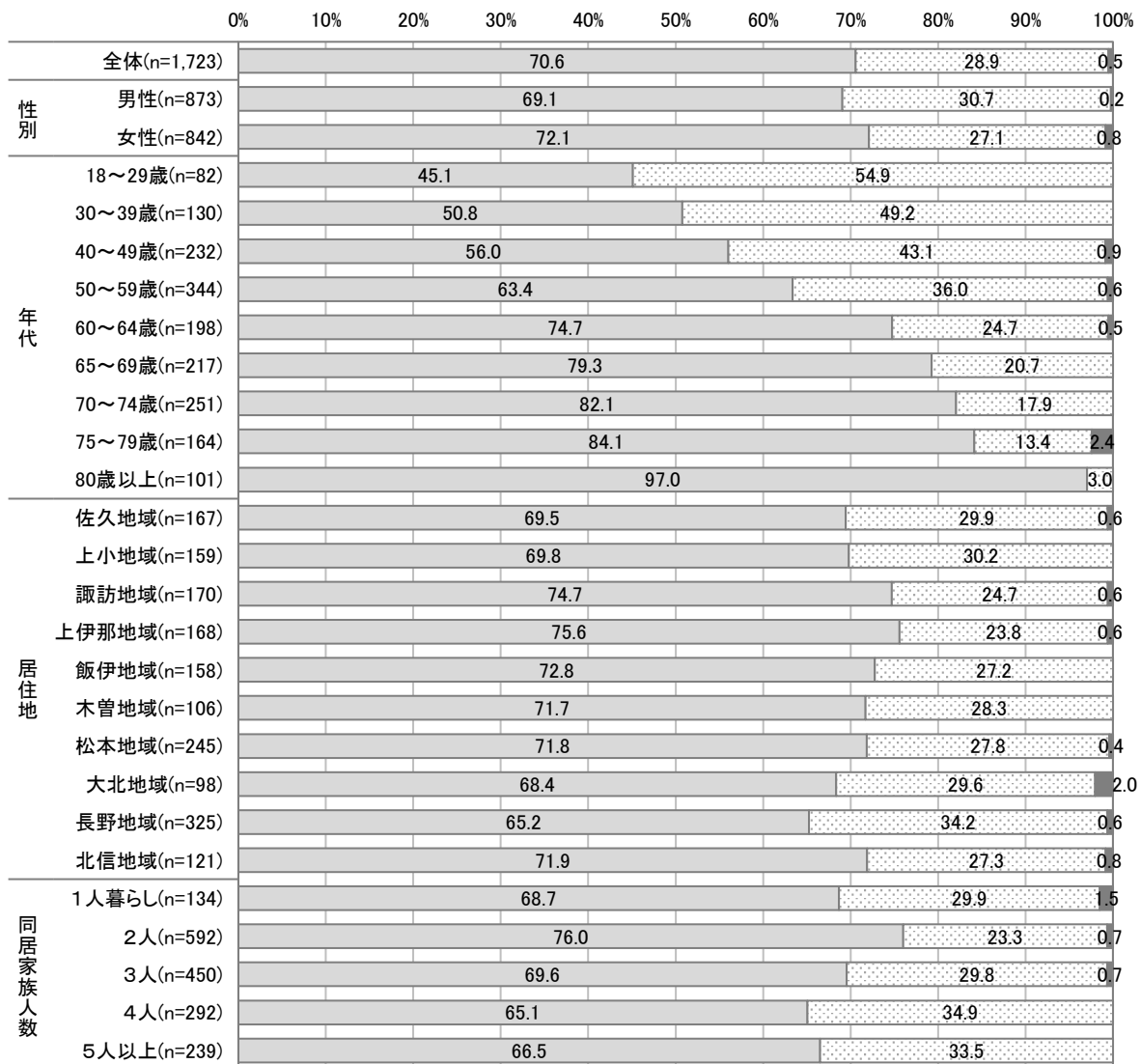
問17 あなたは、かかりつけの医師がいますか。

かかりつけの医師については、「いる」(70.6%)が約7割で、前回調査(67.4%)を上回った。性別にみると、男女とも同じ傾向といえる。

年代別にみると、「いる」は、年代が上がるにつれ高くなっている。「18~29歳」(45.1%)では4割台であるものの、「30~39歳」(50.8%)で5割を超え、60歳以上では7割を超えている。また、「80歳以上」(97.0%)では10割近くになっている。

居住地別にみると、大きな差はみられない。

同居家族人数別にみると、大きな差はみられない。



□いる □いない ■無回答

問 18 問 17で「1 いる」と回答した方にお尋ねします。

あなたのかかりつけの医師に当てはまるものを、次の中から1つお選びください。

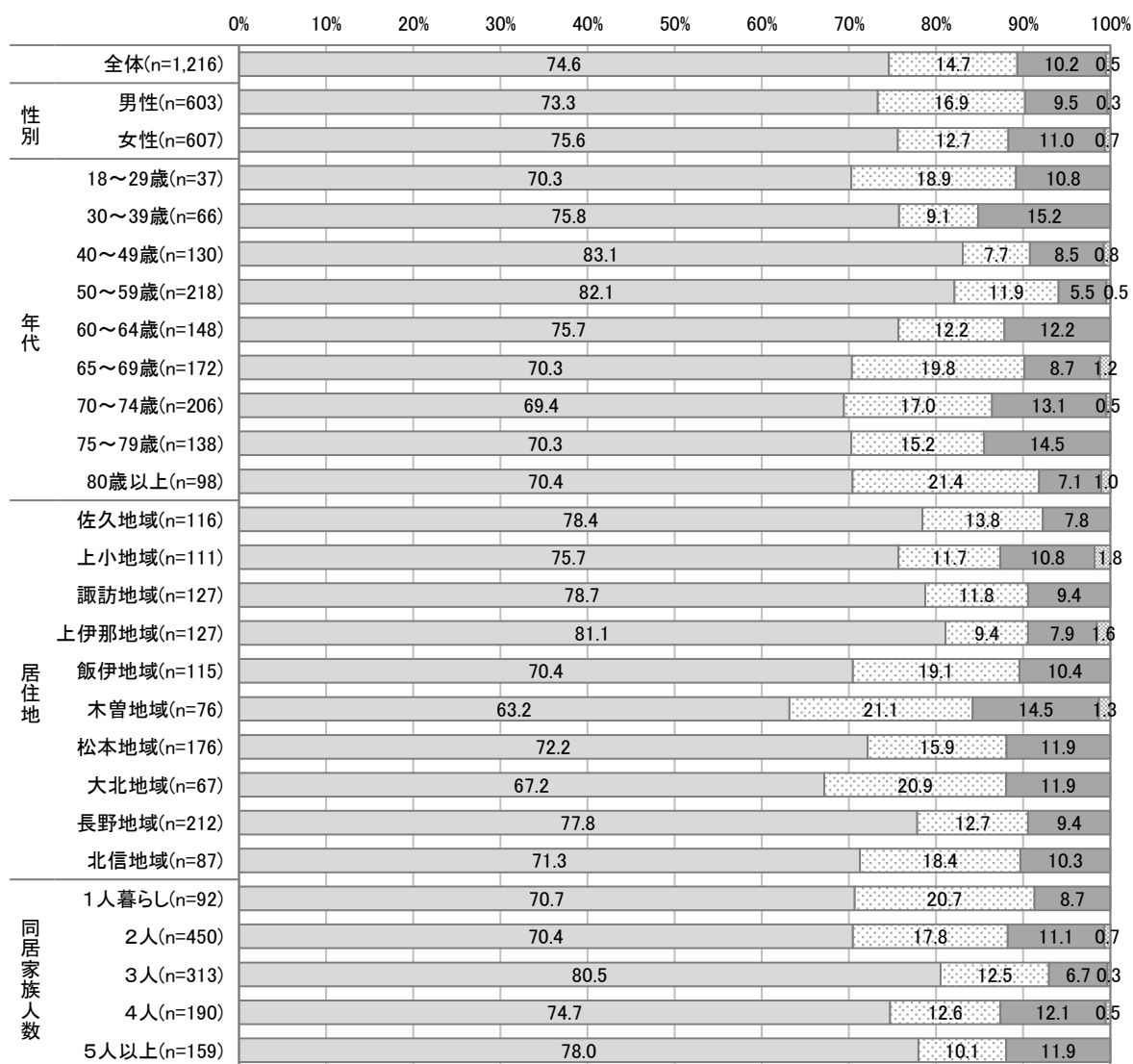
自身のかかりつけの医師については、「診療所（医院・クリニック）の医師」（74.6%）が約7割と最も多い。次に、「大きい病院の医師」（14.7%）、「上記1、2のどちらともいる（病気によって使い分ける）」（10.2%）と続いている。

性別にみると、大きな差はないといえる。

年代別にみると、年齢に比例し「大きい病院の医師」をかかりつけ医としている割合が増加しており、特に、65歳以上では15%を超えている。

居住地別にみると、「木曽地域」（21.1%）、「大北地域」（20.9%）で、「大きい病院の医師」が2割台と、他の地域よりもやや高くなっている。

同居家族人数別にみると、「3人」（80.5%）で「診療所（医院・クリニック）の医師」が8割を超え、他よりもやや高くなっているものの、大きな差は見られない。



□診療所(医院・クリニック)の医師 □大きい病院の医師 ■どちらともいる(病気によって使い分ける) □無回答

問 19 問 17 で「2 いない」と回答した方にお尋ねします。

かかりつけの医師を持たない理由として当てはまるものを、次の中から1つお選びください。

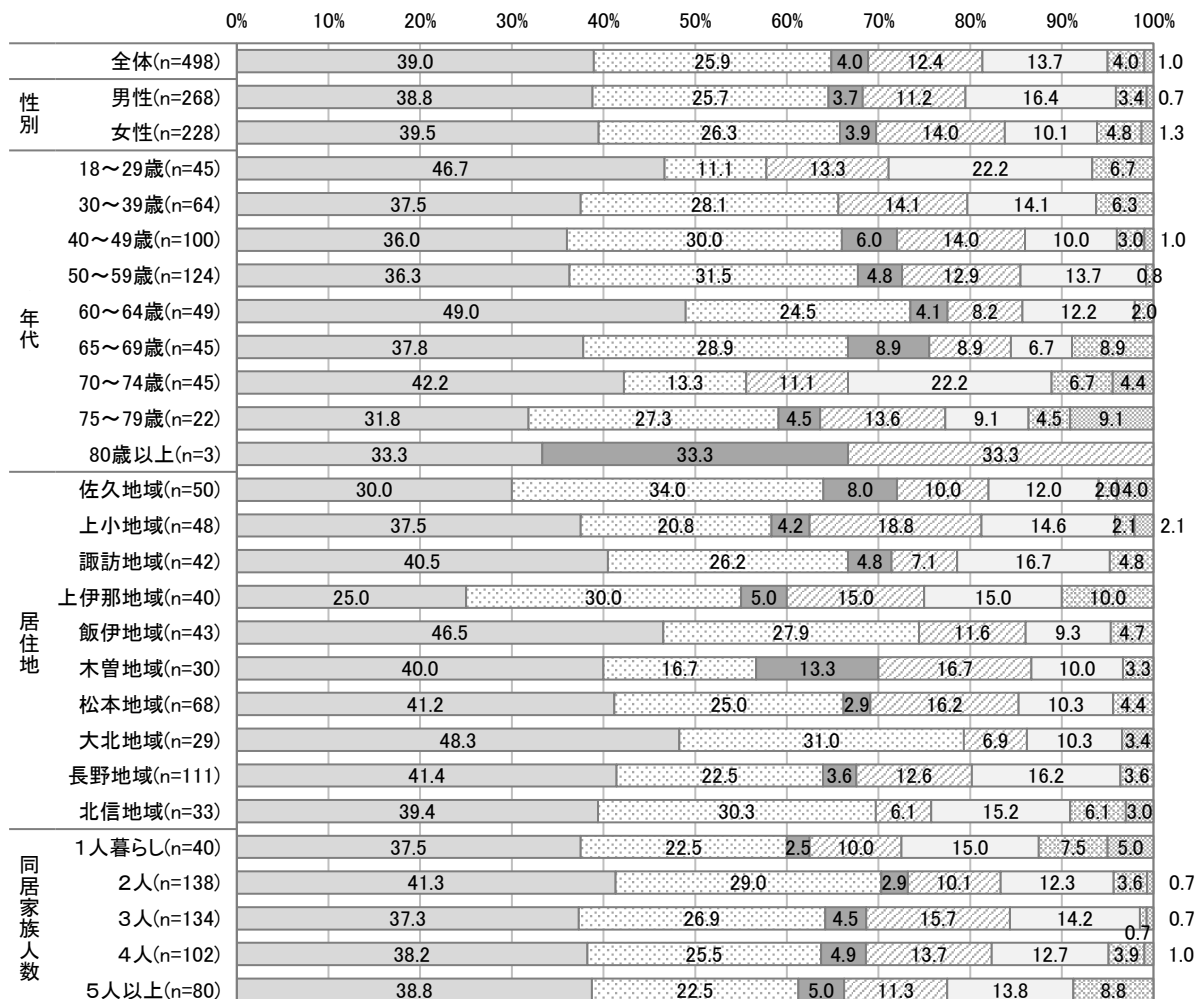
かかりつけの医師を持たない理由については、「医療機関に行く必要がない(病気をしない)から」(39.0%)が約4割と最も多い。次に、「その都度適切な医療機関を選ぶ方がよいと思うから」(25.9%)、「特に理由はない」(13.7%)、「かかりつけ医として適切な医療機関をどう探していいかわからないから」(12.4%)と続いている。

性別にみると、男女とも同じ傾向となっているものの、「特に理由はない」は、「男性」(16.4%)が「女性」(10.1%)よりもやや高くなっている。

年代別にみると、「18～29歳」(46.7%)、「60～64歳」(49.0%)で、「医療機関に行く必要がない(病気をしない)から」が約5割と、他の年代よりやや高くなっている。

居住地別にみると、「その都度適切な医療機関を選ぶ方がよいと思うから」は、「佐久地域」(34.0%)、「上伊那地域」(30.0%)、「大北地域」(31.0%)、「北信地域」(30.3%)で3割以上となり、他の地域よりもやや高くなっている。

同居家族人数別にみると、大きな差は少ないといえる。



- 医療機関に行く必要がない(病気をしない)から
- その都度適切な医療機関を選ぶ方がよいと思うから
- 近所に適切な医療機関がないから
- かかりつけ医として適切な医療機関をどう探していいかわからないから
- 特に理由はない
- その他
- 無回答

4. かかりつけの歯科医師について

問20 あなたは、かかりつけの歯科医師がいますか。

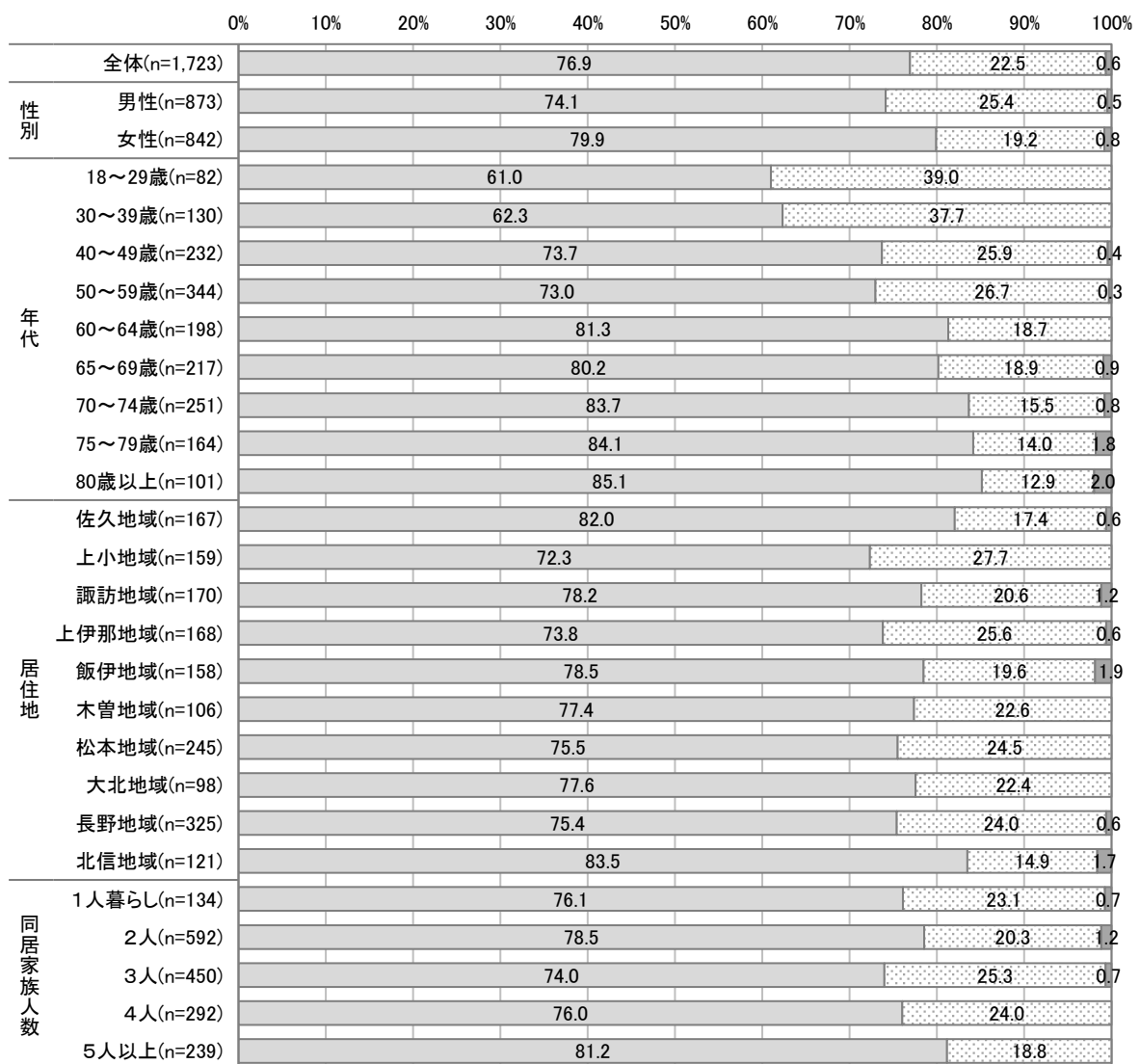
かかりつけの歯科医師は、「いる」(76.9%)が約8割、前回調査(75.7%)を上回った。

性別にみると、「いる」は、「女性」(79.9%)が「男性」(74.1%)よりもやや高くなっている。

年代別にみると、「いる」は、39歳以下では6割台となり、40歳から59歳では7割台、60歳以上で8割を超えている。また、問17の「かかりつけ医」と比べると、若い世代でも一定程度のかかりつけ歯科医師がいる。

居住地別にみると、「いる」は、「佐久地域」(82.0%)、「北信地域」(83.5%)で8割を超え、他の地域よりもやや高くなっている。

同居家族人数別にみると、「いる」は、「5人以上」(81.2%)で8割を超えている。



□いる □いない ■無回答

問21 問20で「1 いる」と答えた方にお尋ねします。

かかりつけの歯科医院で年1回以上の定期的な歯科健診（検診）を受けていますか。

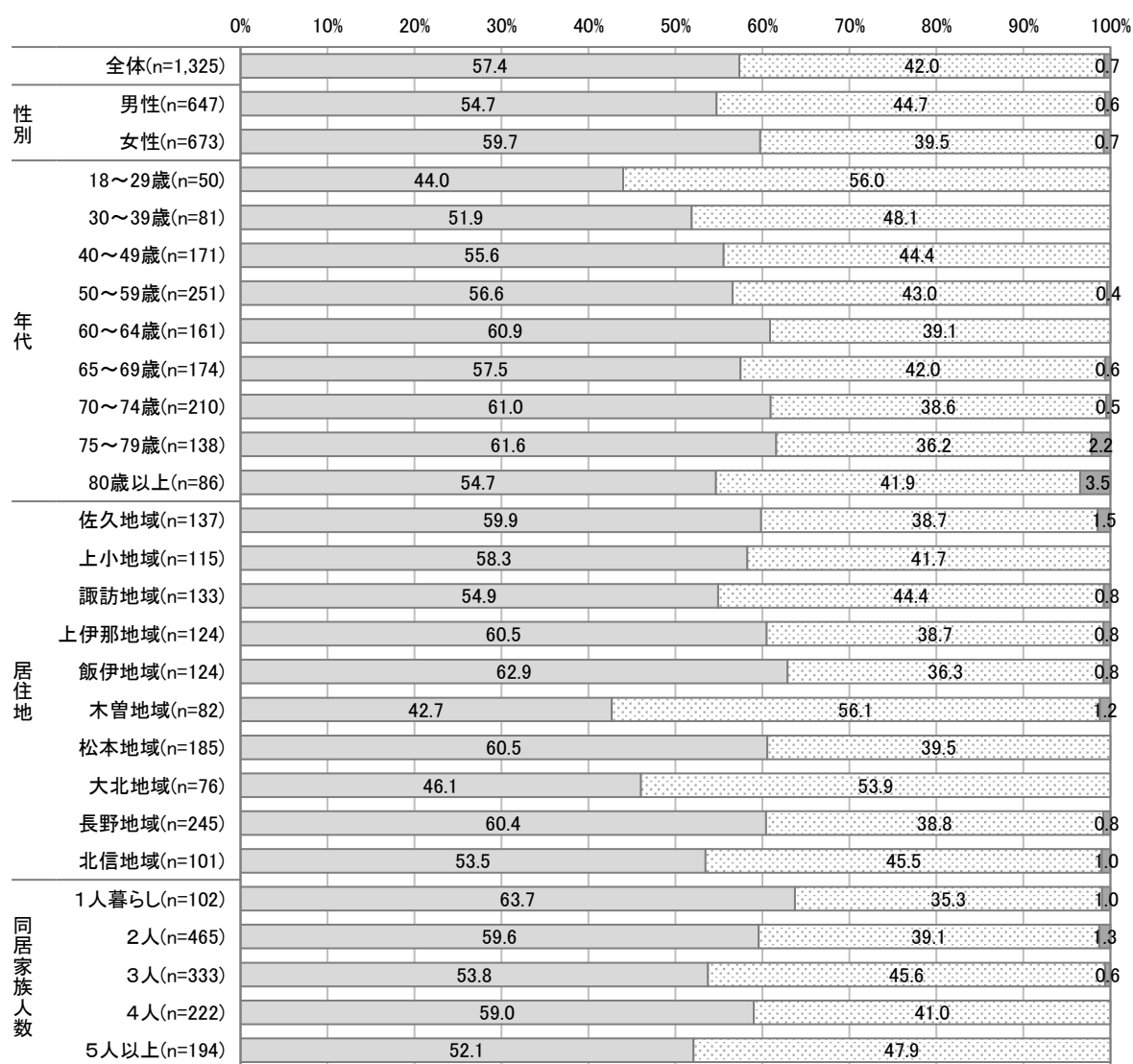
かかりつけの歯科医院で年1回以上の定期的な歯科健診（検診）を受けているかについては、「いる」（57.4%）が約6割、「いない」（42.0%）が約4割となっている。

性別にみると、「いる」は、「女性」（59.7%）が「男性」（54.7%）よりもやや高くなっている。

年代別にみると、「いる」は、「18～29歳」（44.0%）では4割台となるものの、30歳以上では5割を超えている。特に、「60～64歳」（60.9%）、「70～74歳」（61.0%）、「75～79歳」（61.6%）で6割を超えている。

居住地別にみると、「いる」は、「木曾地域」（42.7%）、「大北地域」（46.1%）で4割台と、他の地域よりもやや低くなっている。

同居家族人数別にみると、「いる」は、「1人暮らし」（63.7%）で6割を超えている。



□いる □いない ■無回答

問22 問20で「2 いない」と答えた方にお尋ねします。

かかりつけの歯科医師を持たない理由として当てはまるものを、次の中から1つお選びください。

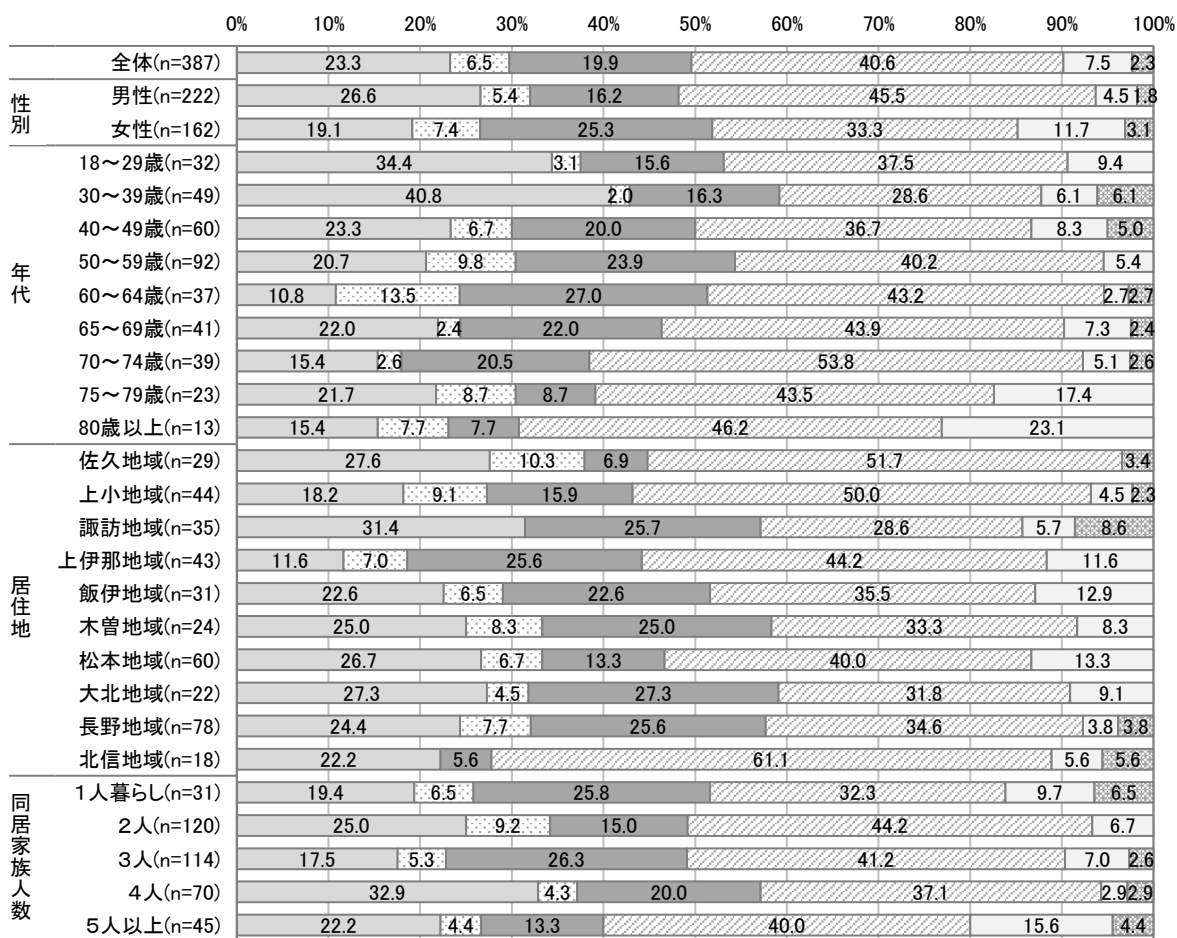
かかりつけの歯科医師を持たない理由は、問19「かかりつけ医」を持たない理由と比べ「特に理由はない」(40.6%)の割合が高く、約4割と最も多い。次に、「歯科医院に行く必要がない(口の中の病気にならない)から」(23.3%)、「適切な歯科医院をどう探していいかわからないから」(19.9%)、「近所に適切な歯科医院がないから」(6.5%)と続いている。

性別にみると、「適切な歯科医院をどう探していいかわからないから」は、「女性」(25.3%)が「男性」(16.2%)よりもやや高くなっている。

年代別にみると、「適切な歯科医院をどう探していいかわからないから」は、40歳から74歳で2割以上となっている。

居住地別にみると、「適切な歯科医院をどう探していいかわからないから」は、「諏訪地域」(25.7%)、「上伊那地域」(25.6%)、「飯伊地域」(22.6%)、「木曾地域」(25.0%)、「大北地域」(27.3%)、「長野地域」(25.6%)で2割を超えている。

同居家族人数別にみると、「適切な歯科医院をどう探していいかわからないから」は、「1人暮らし」(25.8%)、「3人」(26.3%)、「4人」(20.0%)で2割以上となっている。



- 歯科医院に行く必要がない(口の中の病気にならない)から
- 近所に適切な歯科医院がないから
- 適切な歯科医院をどう探していいかわからないから
- 特に理由はない
- その他
- 無回答

5. かかりつけの薬局について

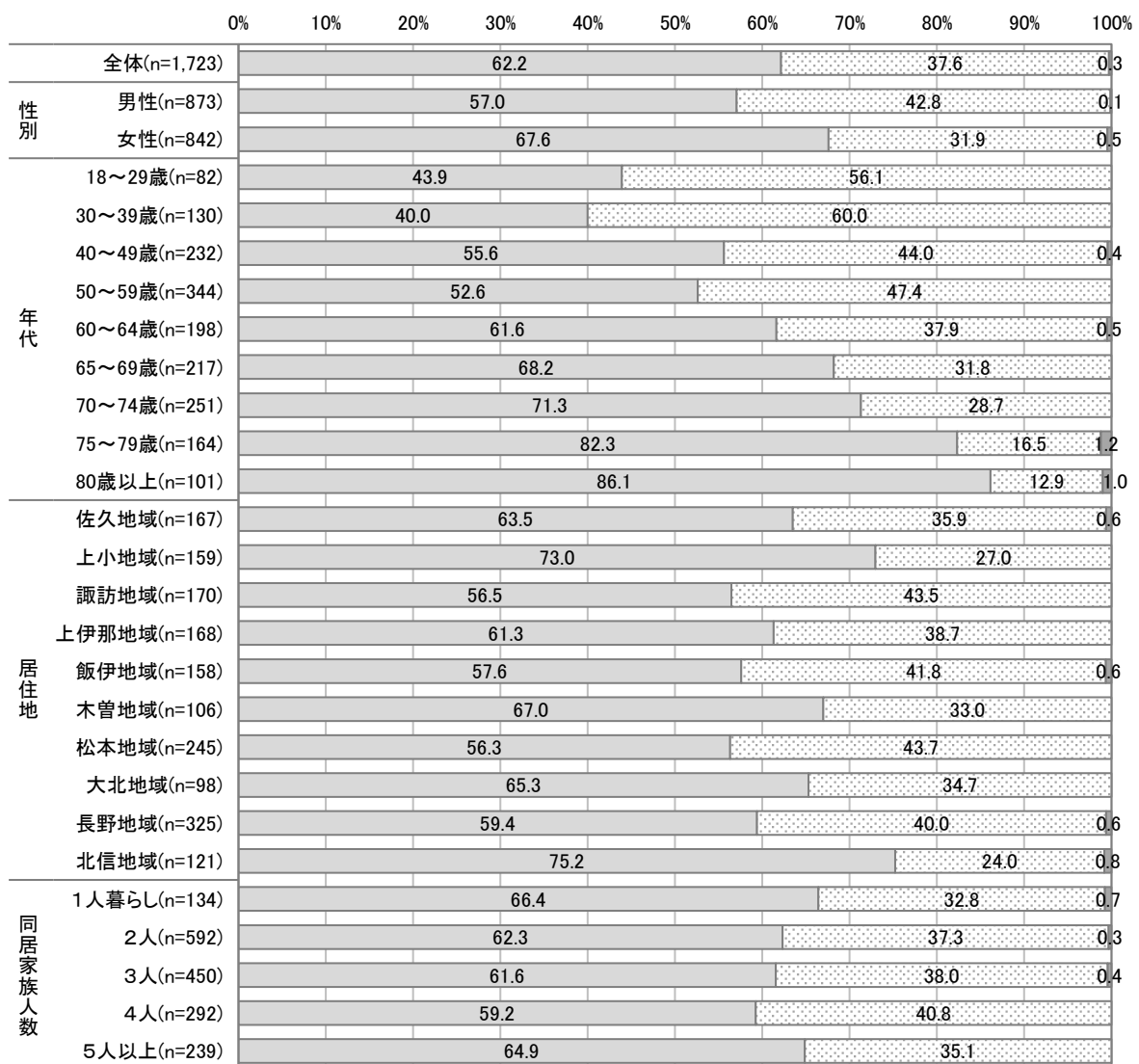
問23 あなたは、かかりつけの薬局をお持ちですか。

かかりつけの薬局を持っているかについては、「はい」(62.2%)が約6割で、前回調査(53.4%)を上回った。

性別にみると、「はい」は、「女性」(67.6%)が「男性」(57.0%)よりもやや高くなっている。

年代別にみると、「はい」は、39歳以下では4割台となり、40歳以上で5割を超えている。特に、75歳以上では8割を超えている。また、問17の「かかりつけ医」と比べて全体的にやや低いものの、同じ傾向が見られる。

居住地別にみると、「はい」は、「上小地域」(73.0%)、「北信地域」(75.2%)で7割を超えている。同居家族人数別にみると、大きな差は少ないといえる。



□はい □いいえ ■無回答

問24 問23で「1 はい」と答えた方にお尋ねします。

「かかりつけの薬局」に当てはまるものを、次の中から1つお選びください。

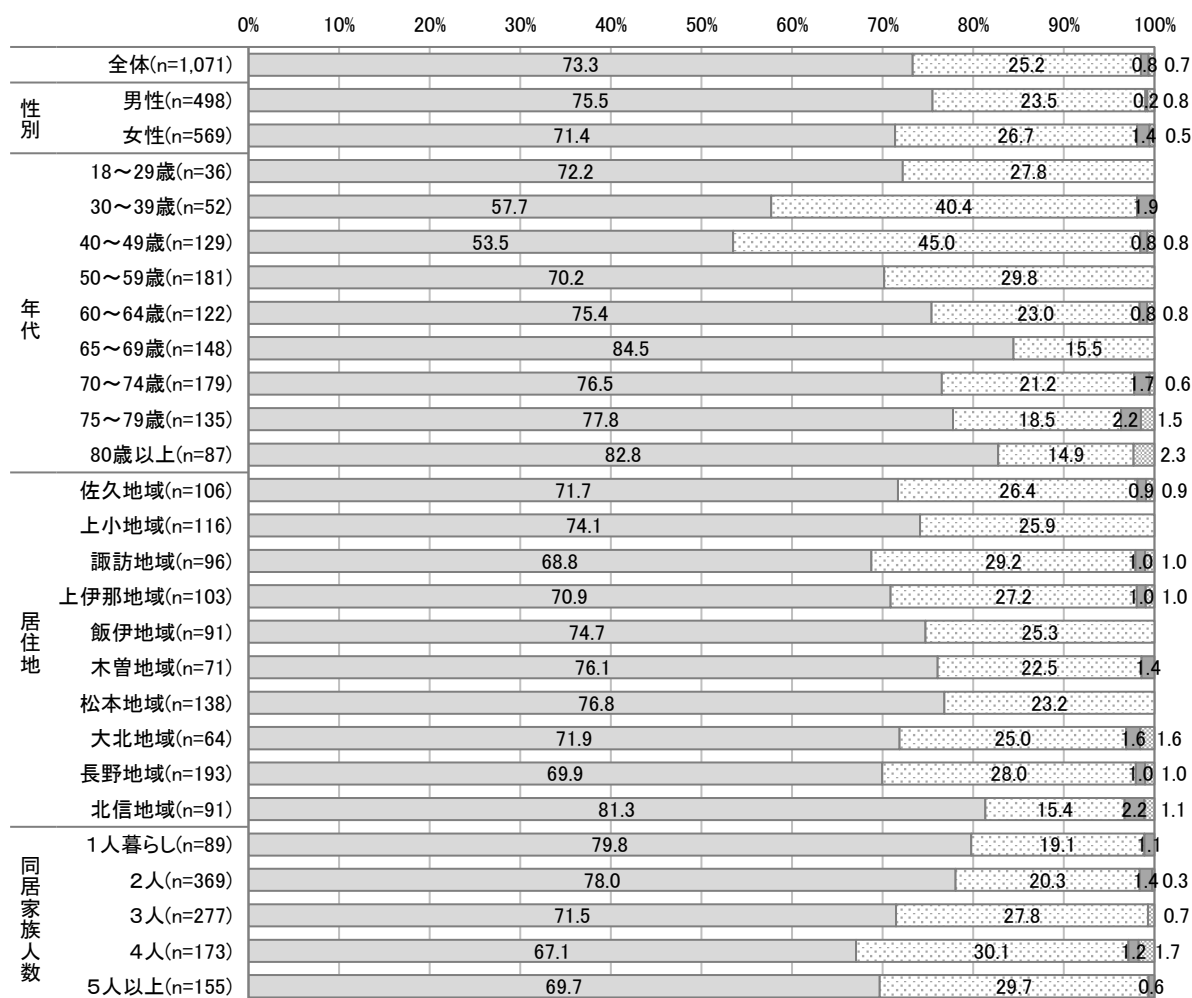
かかりつけの薬局を持っている方に「かかりつけの薬局」について伺ったところ、「いつも「かかりつけの薬局」から薬をもらっている」(73.3%)が約7割、「「かかりつけの薬局」を決めているが、「かかりつけの薬局」以外からも薬をもらう場合がある」(25.2%)が約3割となっている。

性別にみると、「いつも「かかりつけの薬局」から薬をもらっている」は、「男性」(75.5%)が「女性」(71.4%)よりもやや高くなっている。

年代別にみると、「いつも「かかりつけの薬局」から薬をもらっている」は、30歳から49歳で5割台となっている。他の年代では7割を超えている。特に、「65～69歳」(84.5%)、「80歳以上」(82.8%)で8割を超えている。

居住地別にみると、「いつも「かかりつけの薬局」から薬をもらっている」は、「北信地域」(81.3%)で8割を超え、他の地域よりもやや高くなっている。

同居家族人数別にみると、「いつも「かかりつけの薬局」から薬をもらっている」は、「1人暮らし」(79.8%)、「2人」(78.0%)で約8割となっている。



- いつも「かかりつけの薬局」から薬をもらっている
- ▨ 「かかりつけの薬局」を決めているが、「かかりつけの薬局」以外からも薬をもらう場合がある
- その他
- 無回答

問25 問23で「2 いいえ」と答えた方にお尋ねします。

「かかりつけの薬局」を持たない理由について当てはまるものを、次の中から1つお選びください。

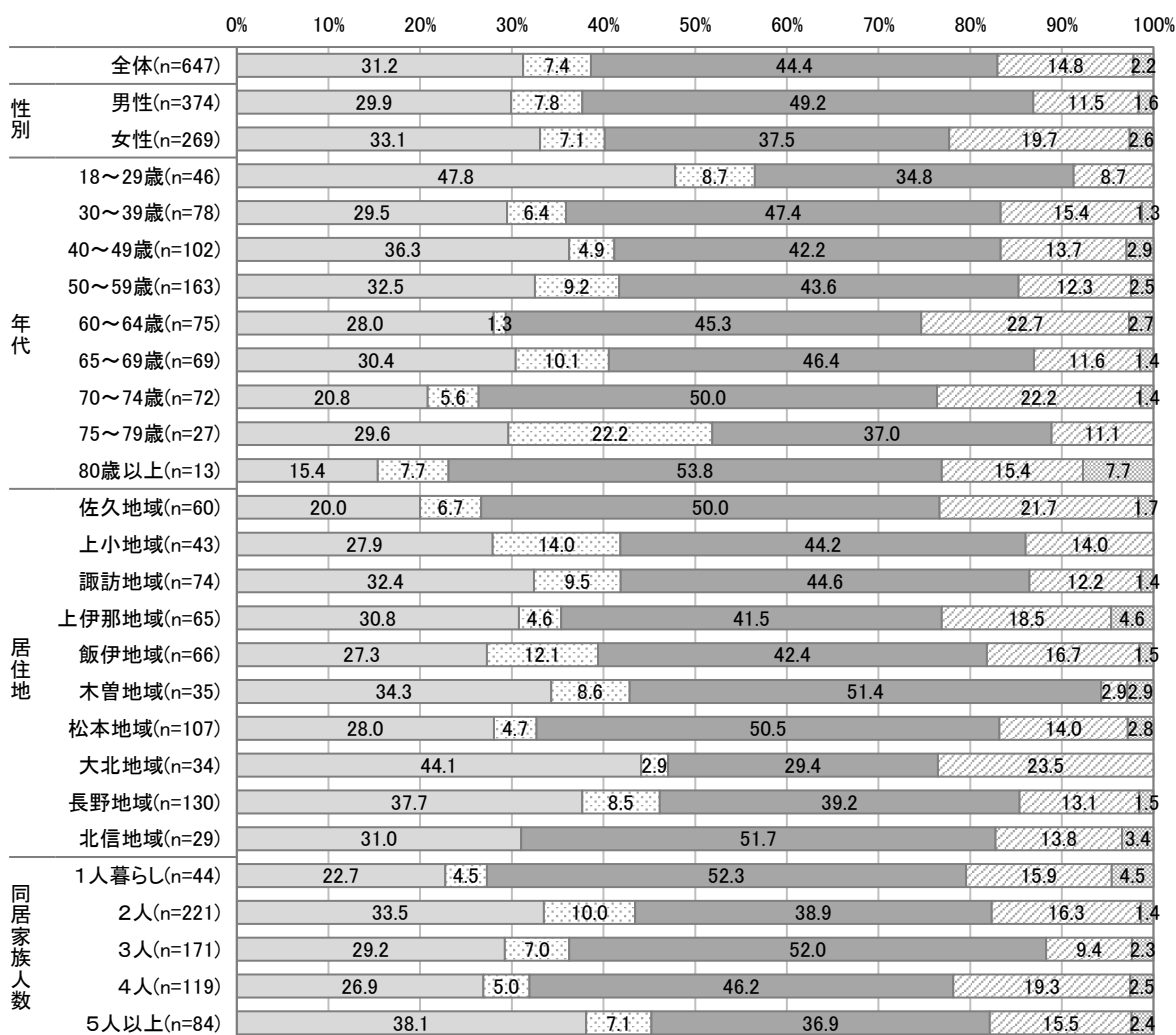
「かかりつけの薬局」を持たない理由については、「かかりつけ薬局」の必要性を感じていないから（44.4%）が約4割と最も多く、問22の「かかりつけの歯科医師」と同じ傾向が見られる。次に、「薬の服用や健康状態に不安を感じていないから」（31.2%）、「その他」（14.8%）、「近所に適切な薬局がないから」（7.4%）と続いている。

性別にみると、「かかりつけ薬局」の必要性を感じていないから」は、「男性」（49.2%）が「女性」（37.5%）よりも高くなっている。

年代別にみると、「かかりつけ薬局」の必要性を感じていないから」は、「70～74歳」（50.0%）、「80歳以上」（53.8%）で5割以上となっている。また、「近所に適切な薬局がないから」は「75～79歳」（22.2%）で2割を超えている。

居住地別にみると、「かかりつけ薬局」の必要性を感じていないから」は、「佐久地域」（50.0%）、「木曾地域」（51.4%）、「松本地域」（50.5%）で5割以上となっている。

同居家族人数別にみると、「かかりつけ薬局」の必要性を感じていないから」は、「1人暮らし」（52.3%）、「3人」（52.0%）で5割を超えている。



- 薬の服用や健康状態に不安を感じていないから
- 「かかりつけ薬局」の必要性を感じていないから
- ▨ その他
- ▩ 近所に適切な薬局がないから
- 無回答

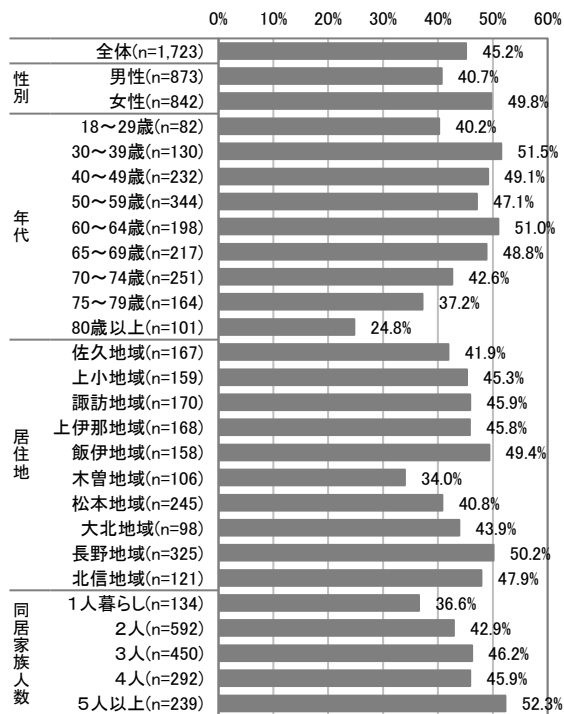
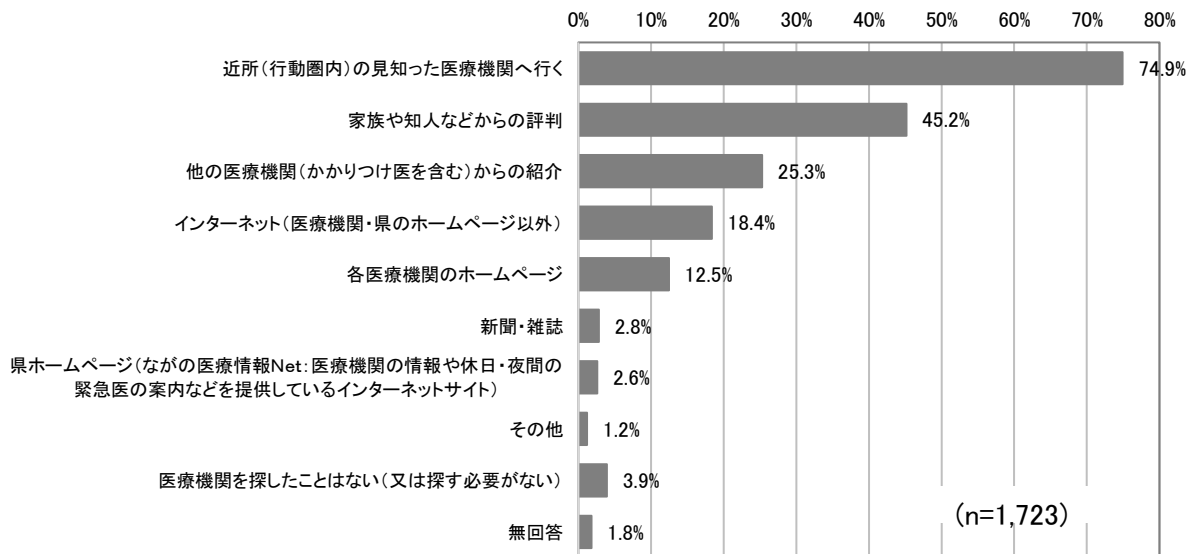
6. 医療機関への受診について

問26 あなたが医療機関を探す場合、どのように探していますか。次の中から、3つまでお選びください。

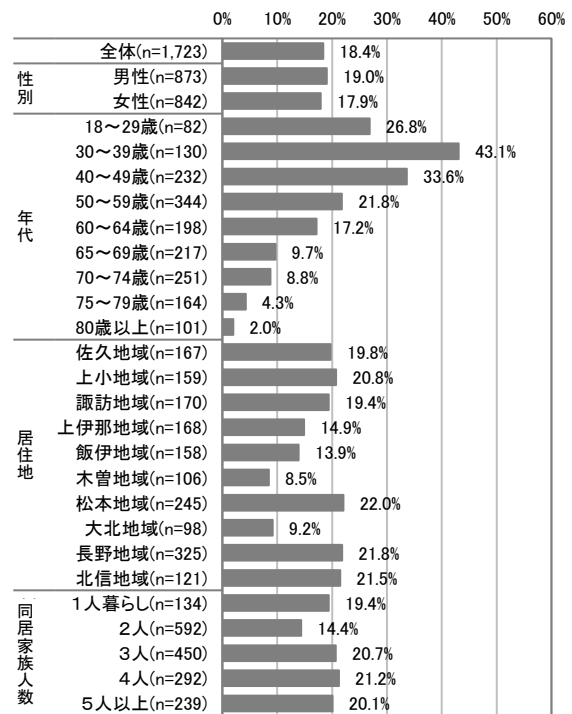
医療機関を探す方法については、「近所（行動圏内）の見知った医療機関へ行く」（74.9%）が約7割と最も多い。次に、「家族や知人などからの評判」（45.2%）、「他の医療機関（かかりつけ医を含む）からの紹介」（25.3%）と続いている。

「家族や知人などからの評判」については、「女性」（49.8%）が「男性」（40.7%）よりもやや高く、30歳から69歳までで約5割と他の年代よりも高くなっている。

「インターネット（医療機関・県のホームページ以外）」については、男女の差は少なく、「30～39歳」（43.1%）、「40～49歳」（33.6%）で3割を超え、他の年代よりも高くなっている。



■ 家族や知人などからの評判

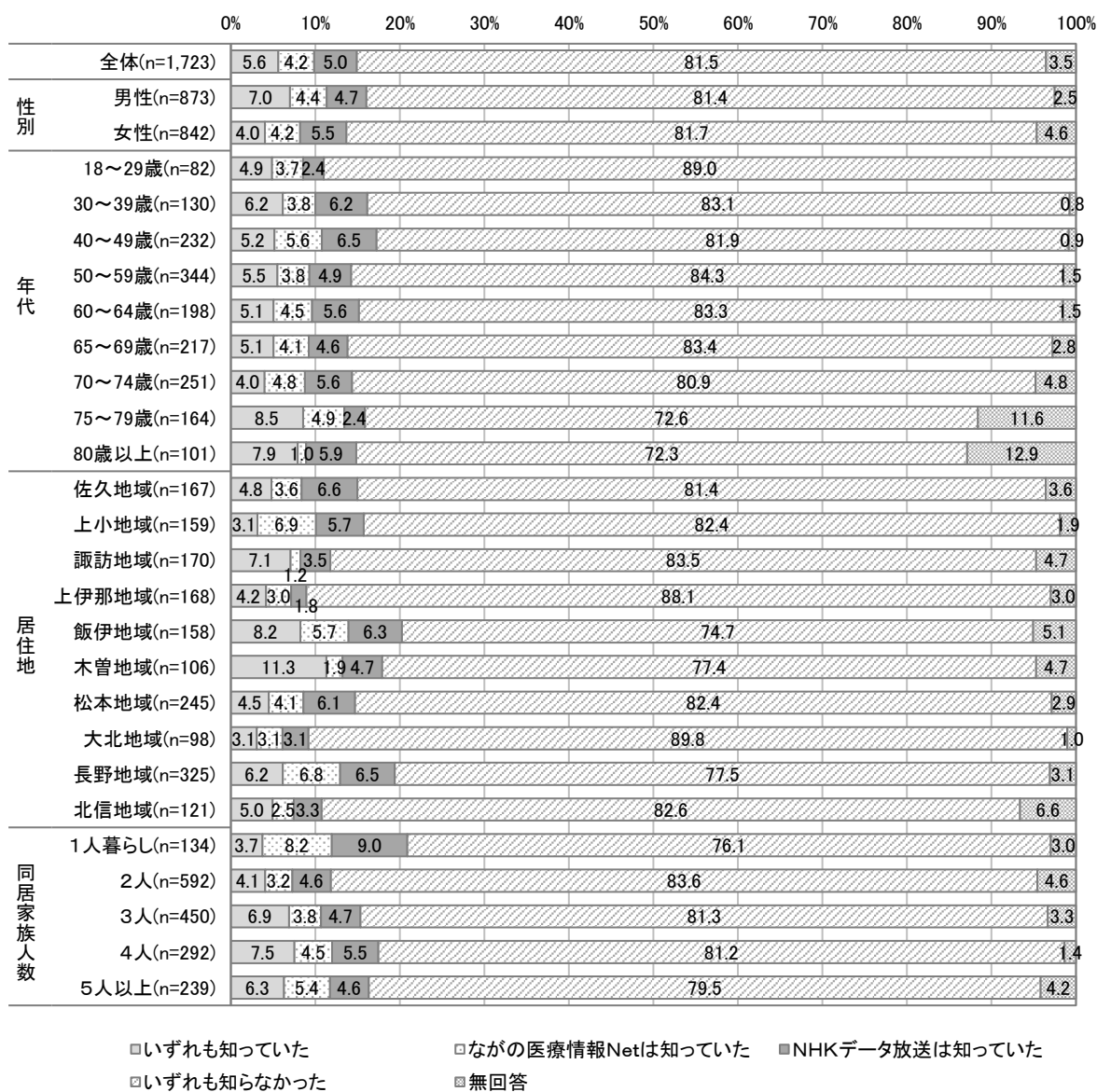


■ インターネット（医療機関・県のホームページ以外）

問27 医療機関の情報や休日・夜間の緊急医の案内などを提供しているインターネットサイト「ながの医療情報Net」(https://www.qq.pref.nagano.lg.jp/)やNHK総合テレビがデータ放送で提供している「休日夜間医療」をご存知ですか。次の中から1つ選んでください。

医療機関の情報や休日・夜間の緊急医の案内などを提供しているインターネットサイトについては、「いずれも知らなかった」(81.5%)が約8割となる。一方、「いずれも知っていた」(5.6%)、「NHKデータ放送は知っていた」(5.0%)、「ながの医療情報Netは知っていた」(4.2%)と続いている。

属性による差はあるものの、「NHKデータ放送」、「ながの医療情報Net」とも、知っていた割合は1割前後に留まっている。



問28 医療機関での病気の診察や治療に関して、どのようなことを望みますか。次の中から、3つまでお選びください。

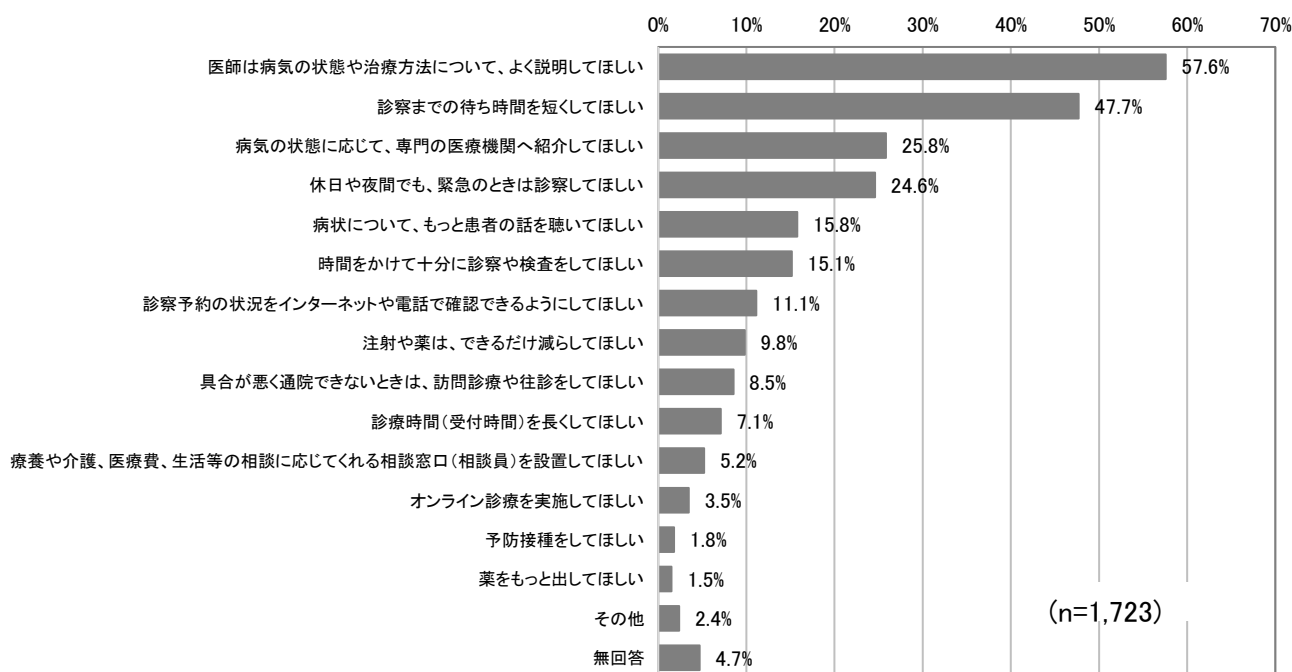
医療機関での病気の診察や治療に関して望むことは、「医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい」(57.6%)が約6割と最も多い。次に、「診察までの待ち時間を短くしてほしい」(47.7%)、「病気の状態に応じて、専門の医療機関へ紹介してほしい」(25.8%)、「休日や夜間でも、緊急のときは診察してほしい」(24.6%)と続いている。

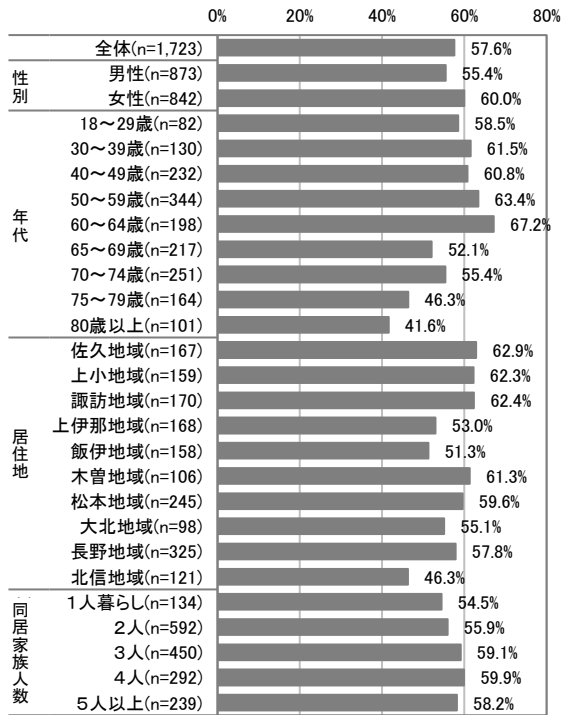
「医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい」は、「女性」(60.0%)が「男性」(55.4%)よりもやや高く、74歳以下で5割を超え、75歳以上では4割台となっている。

「診察までの待ち時間を短くしてほしい」は、「男性」(51.3%)が「女性」(43.9%)よりもやや高く、30代、40代および「60～64歳」で5割を超えている。

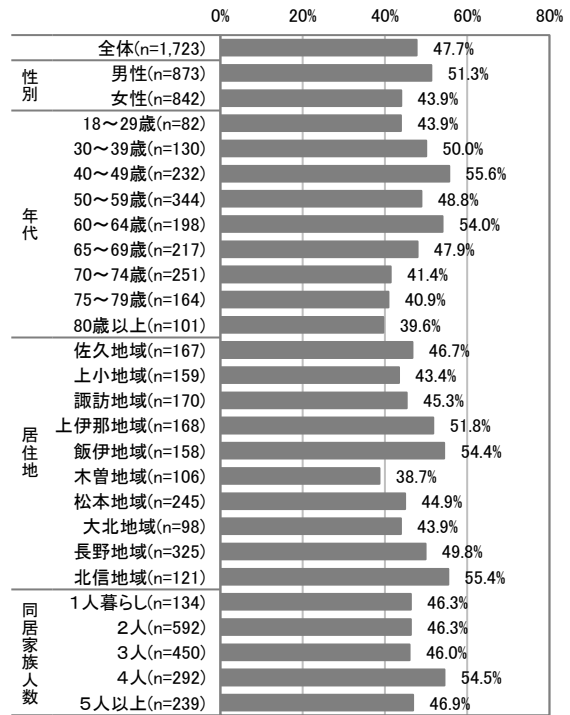
「病気の状態に応じて、専門の医療機関へ紹介してほしい」は、男女の差は少なく、39歳以下では2割に満たないものの、60代は3割を超えている。

「休日や夜間でも、緊急のときは診察してほしい」は、属性による差は少ない。

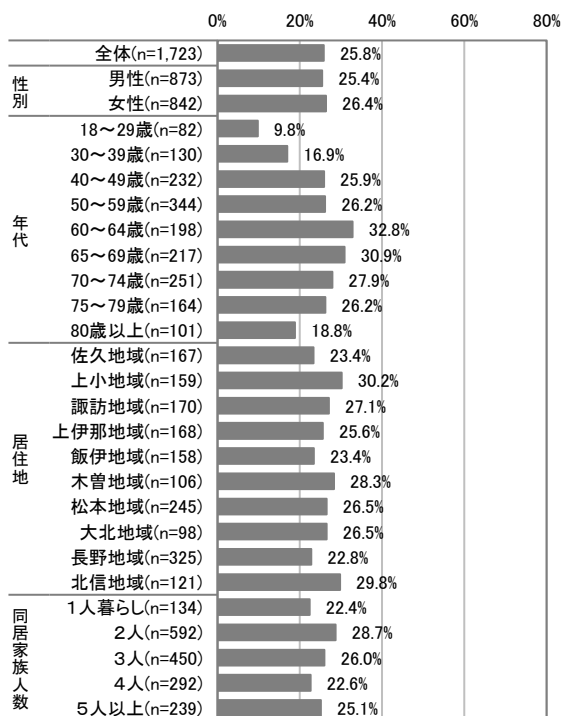




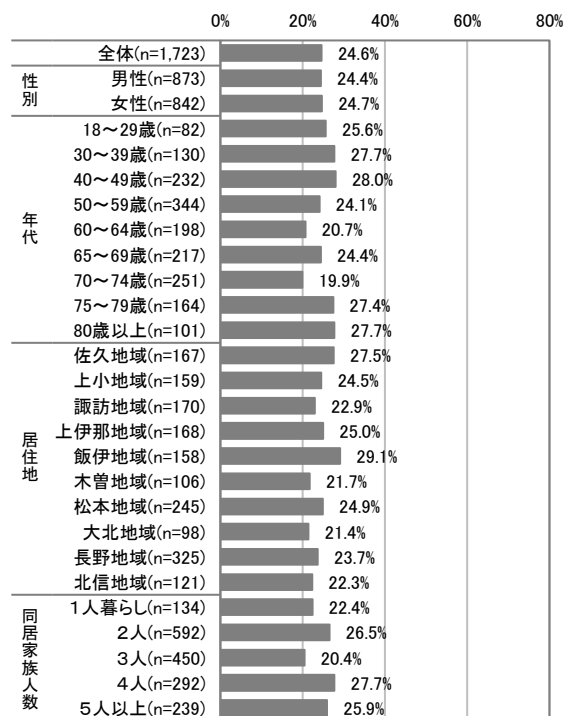
■医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい



■診察までの待ち時間を短くしてほしい



■病気の状態に応じて、専門の医療機関へ紹介してほしい



■休日や夜間でも、緊急のときは診察してほしい

7. 地域の医療体制について

問29 あなたがお住まいの地域の医療体制について、どのように感じていますか。次の中から、1つお選びください。

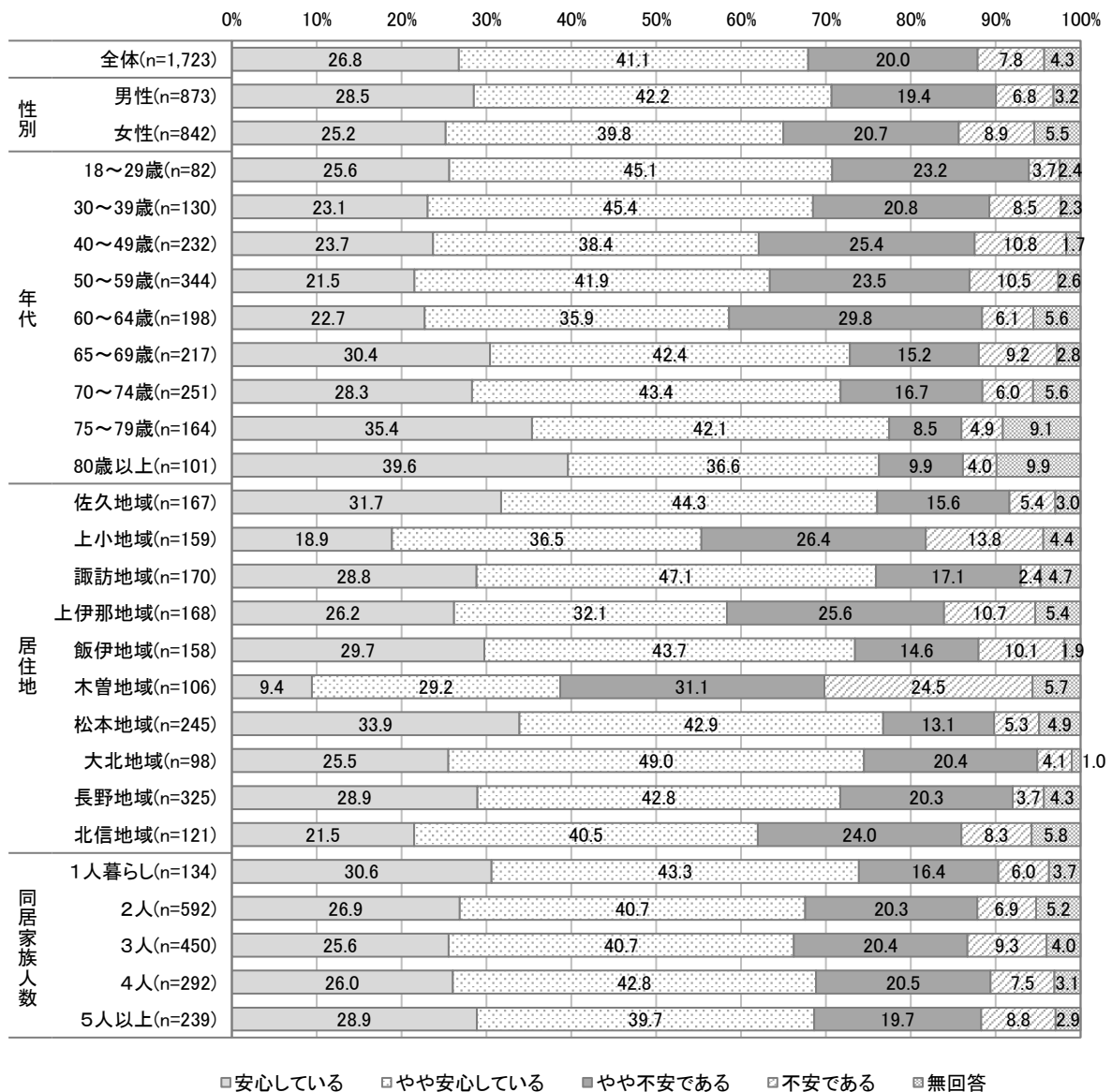
地域の医療体制については、「やや安心している」(41.1%)が約4割と最も多い。次に、「安心している」(26.8%)、「やや不安である」(20.0%)、「不安である」(7.8%)と続いている。「安心している」、「やや安心している」の回答割合の合計となる安心割合は67.9%、「不安である」、「やや不安である」の回答割合の合計となる不安割合は27.8%となっている。

性別にみると、安心割合は、「男性」(70.7%)が「女性」(65.0%)よりもやや高くなっている。

年代別にみると、「18～29歳」と65歳以上で、安心割合が7割を超えている。一方、「60～64歳」(58.6%)では5割台となっている。

居住地別にみると、安心割合は、「木曽地域」(38.6%)で3割台と他の地域よりも低くなっている。また、「上小地域」(55.4%)、「上伊那地域」(58.3%)で5割台と、やや低くなっている。

同居家族人数別にみると、差は少ないといえる。

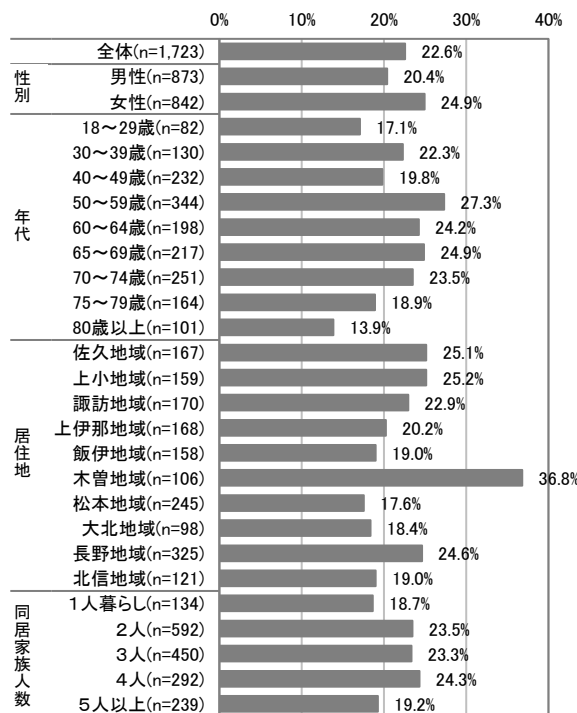
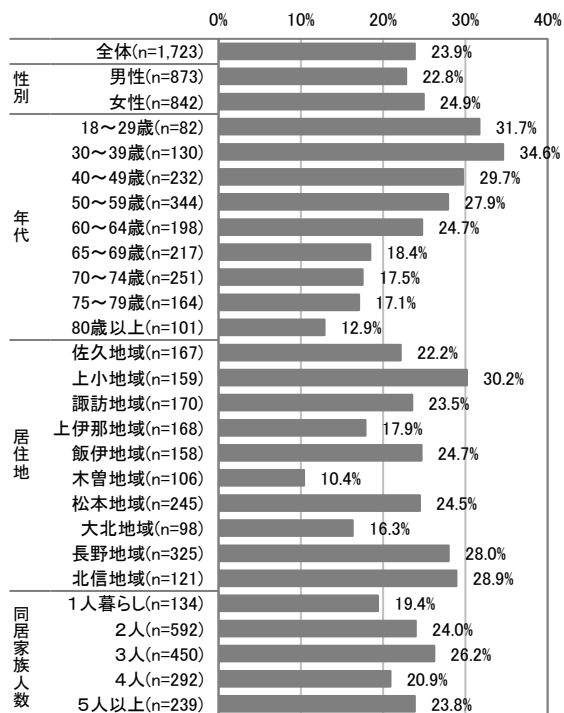
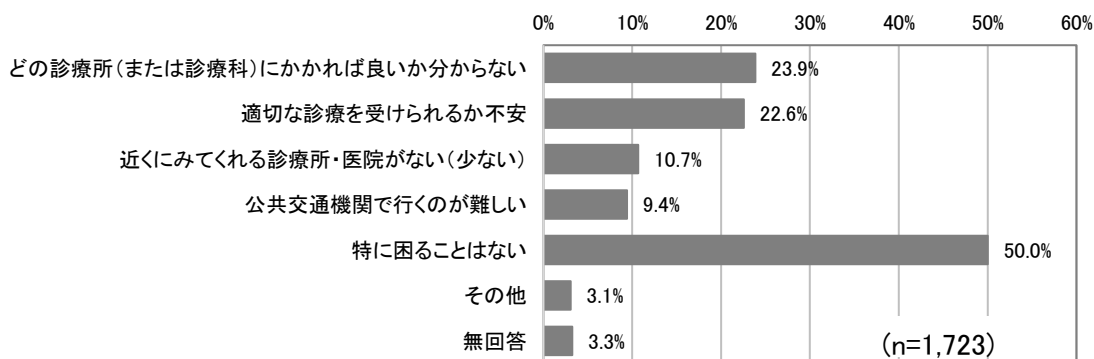


問 30 あなたが比較的軽い病気やけがで、診療所（医院・クリニック）を受診しようと考えた時、何か困ることはありますか。次の中から、2つまでお選びください。

比較的軽い病気やけがで、診療所（医院・クリニック）を受診しようと考えた時に困ることは、「特に困ることはない」（50.0%）が5割と最も多い。次に、「どの診療所（または診療科）にかかれば良いか分からない」（23.9%）、「適切な診療を受けられるか不安」（22.6%）と続いている。

「どの診療所（または診療科）にかかれば良いか分からない」は、59歳以下で約3割と、他の年代よりも高くなっている。また、「上小地域」（30.2%）、「長野地域」（28.0%）、「北信地域」（28.9%）で約3割と、他の地域よりも高くなっている。

「適切な診療を受けられるか不安」は、「50～59歳」（27.3%）で約3割と、他の年代よりもやや高くなっている。また、「木曾地域」（36.8%）で約4割と、他の地域よりも高くなっている。



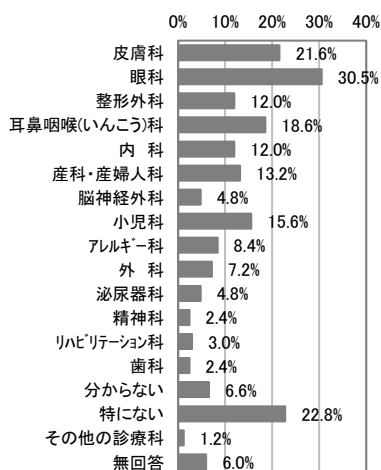
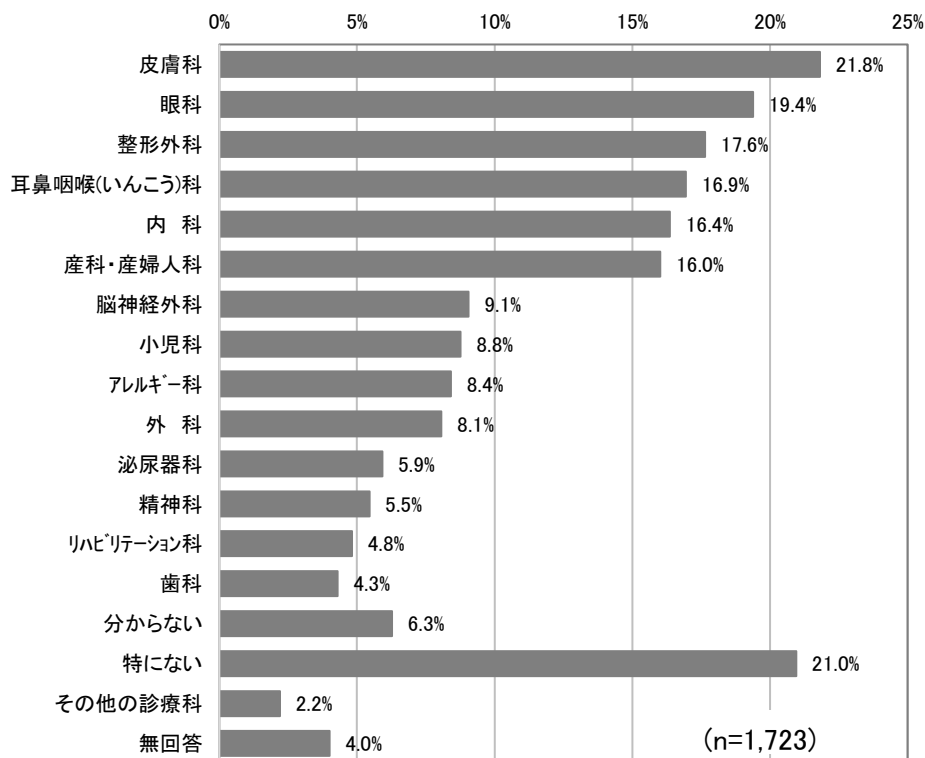
■どの診療所(または診療科)にかかれば良いか分からない

■適切な診療を受けられるか不安

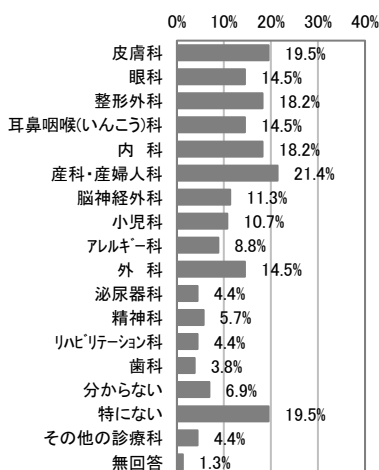
問31 あなたのお住まいの地域で、もっと増えるとよい、充実してほしいと感じている診療科はありますか。次の中から3つまでお選びください。

地域で、もっと増えるとよい、充実してほしいと感じている診療科は、「皮膚科」(21.8%)が最も多い。次に、「眼科」(19.4%)、「整形外科」(17.6%)と続いている。

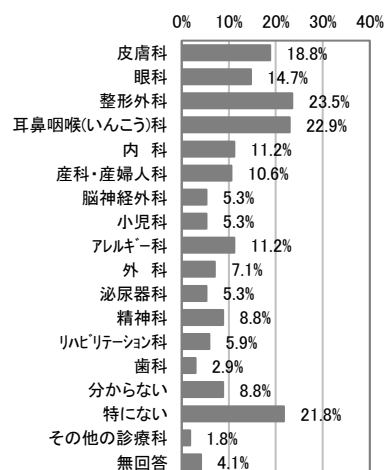
居住地別にみると、地域の状況により、診療科の内容が異なっている。



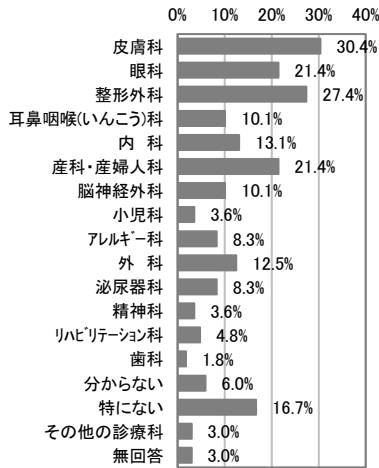
■ 佐久地域(n=167)



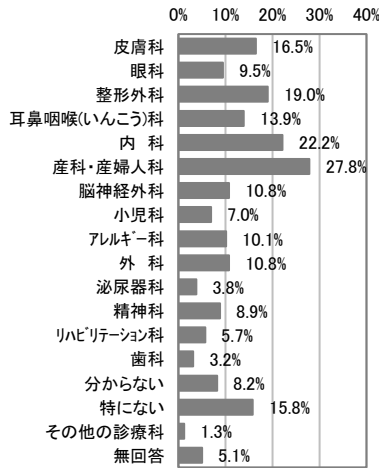
■ 上小地域(n=159)



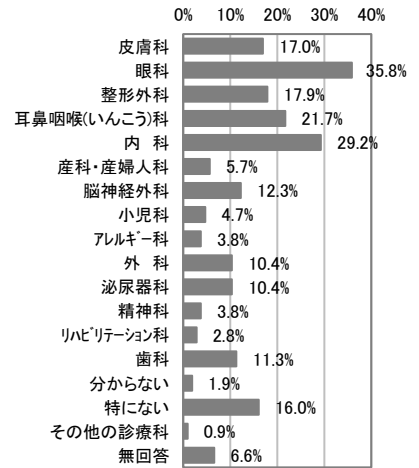
■ 諏訪地域(n=170)



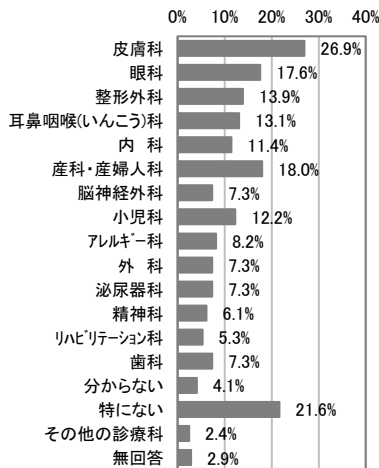
■上伊那地域(n=168)



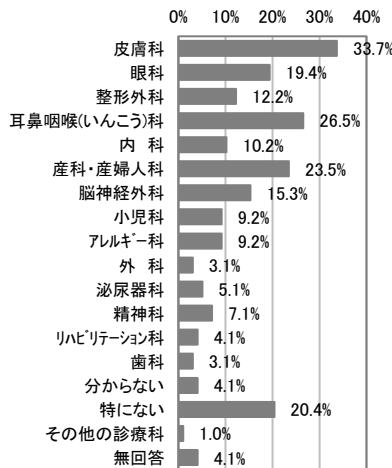
■飯伊地域(n=158)



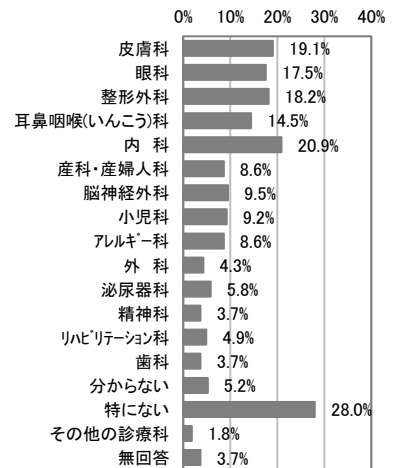
■木曾地域(n=106)



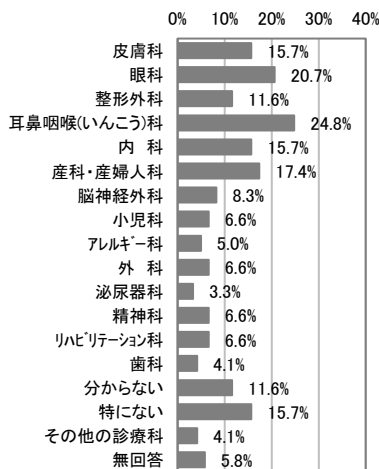
■松本地域(n=245)



■大北地域(n=98)



■長野地域(n=325)



■北信地域(n=121)

8. 新型コロナウイルス感染症について

問32 新型コロナウイルスの感染が拡大した2020年以降、それ以前と比べて医療機関を受診する回数はどうなりましたか。次の中から、1つお選びください。

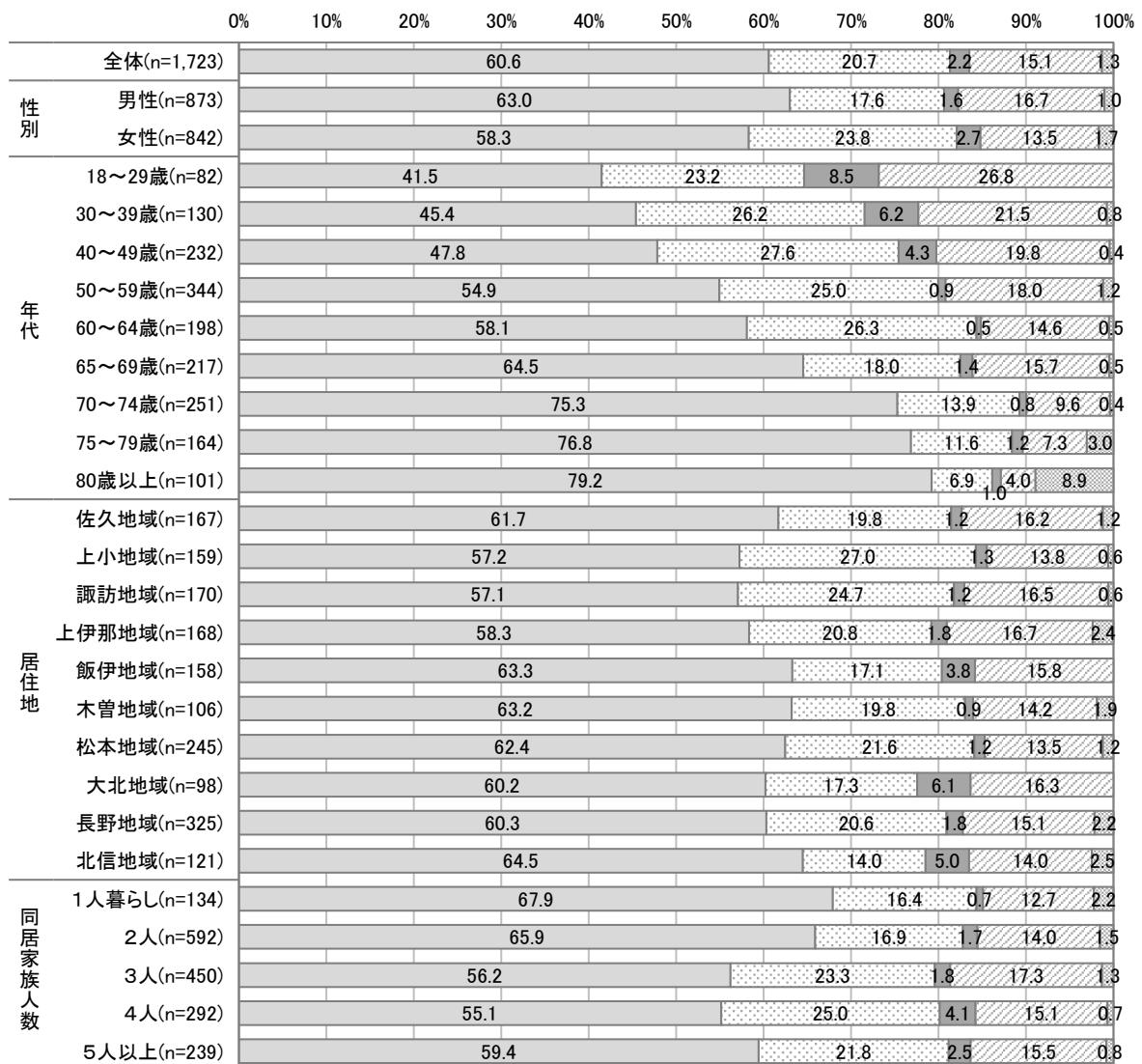
新型コロナウイルスの感染が拡大した2020年以降、それ以前と比べての医療機関を受診する回数については、「以前と変わらず受診している」(60.6%)が約6割と最も多い。次に、「受診回数が減った」(20.7%)、「以前から医療機関は受診していない」(15.1%)と続いている。

性別にみると、「受診回数が減った」は、「女性」(23.8%)が「男性」(17.6%)よりもやや高くなっている。

年代別にみると、「受診回数が減った」は、64歳以下で2割を超えている。65歳から79歳では1割台、「80歳以上」(6.9%)では1割に満たない。

居住地別にみると、差は少ないといえる。

同居家族人数別にみると、「1人暮らし」、「2人」では、「以前と変わらず受診している」が6割を超えている。

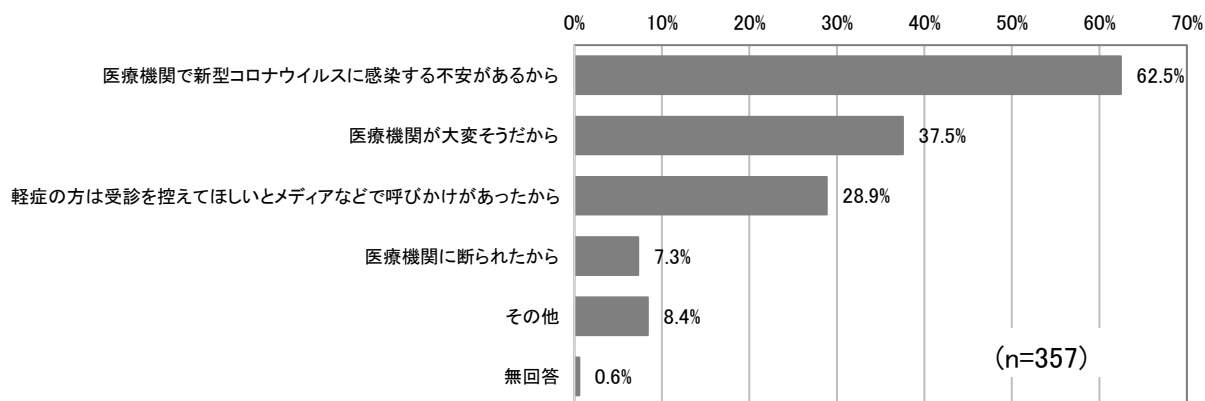


□以前と変わらず受診している □受診回数が減った ■受診回数が増えた □以前から医療機関は受診していない □無回答

問 33 問 32 で「2 受診回数が減った」と答えた方にお尋ねします。

受診回数が減った理由として当てはまるものを、次の中から2つまでお選びください。

受診回数が減った理由としては、「医療機関で新型コロナウイルスに感染する不安があるから」(62.5%) が約6割と最も多い。次に、「医療機関が大変そうだから」(37.5%)、「軽症の方は受診を控えてほしいとメディアなどで呼びかけがあったから」(28.9%) と続いている。



9. 人生の最終段階における医療について

問 34 あなたは、ご自身やご家族の死が近い（病気が可能な限りの治療によっても回復の見込みがなく、近い将来の死が避けられない）場合に受けたい医療や受けたくない医療について、ご家族とどのくらい話し合ったことがありますか。

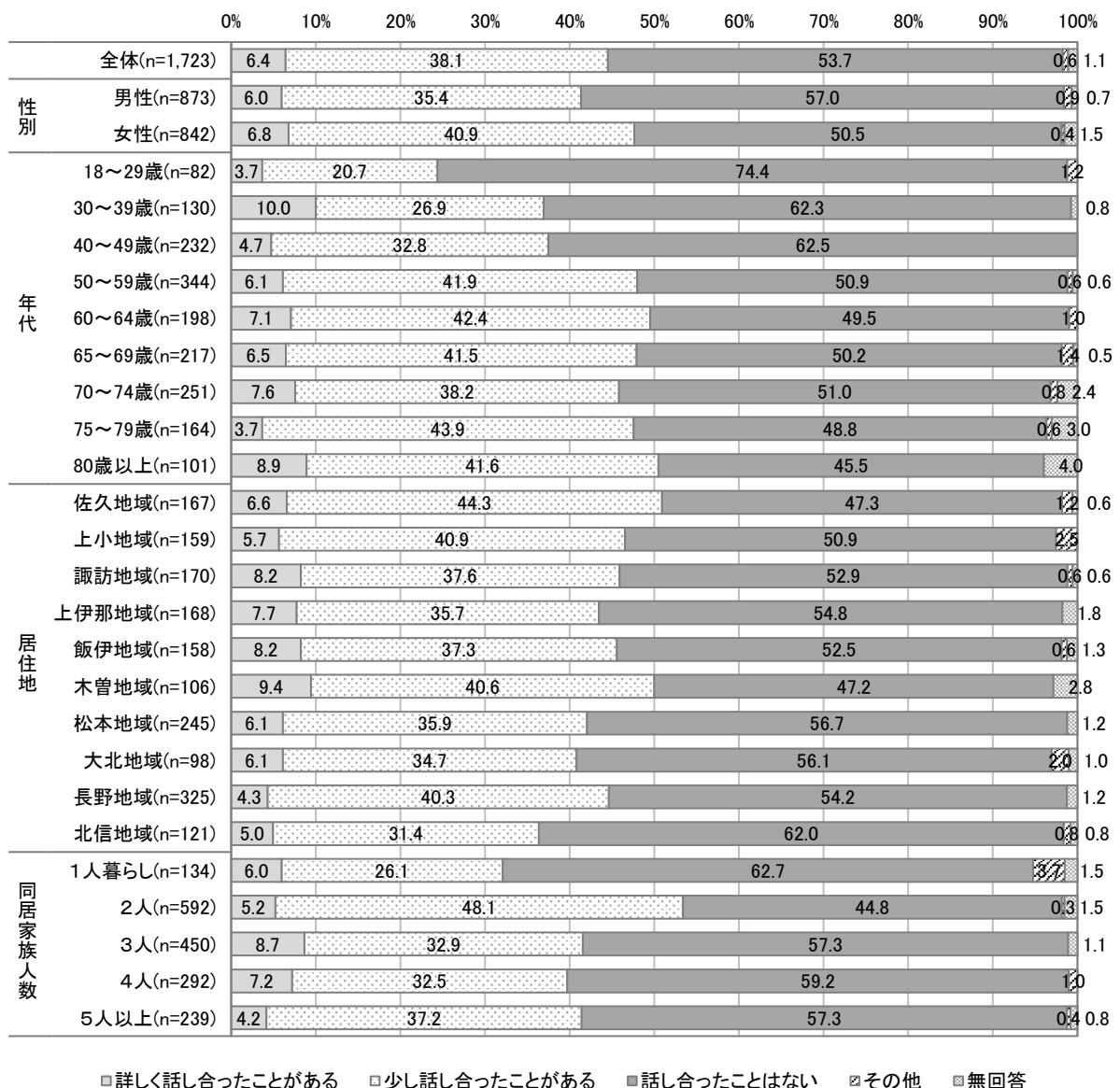
自身やご家族の死が近い場合に受けたい医療や受けたくない医療についての話し合いは、「話し合ったことはない」(53.7%) が約5割と最も多い。次に、「少し話し合ったことがある」(38.1%)、「詳しく話し合ったことがある」(6.4%)となる。「詳しく話し合ったことがある」、「少し話し合ったことがある」の回答割合の合計となる話し合ったことがある割合は、44.5%となる。

性別にみると、話し合ったことがある割合は、「女性」(47.7%) が「男性」(41.4%) よりもやや高くなっている。

年代別にみると、話し合ったことがある割合は、50歳以上で約5割と、他の年代よりも高くなっている。

居住地別にみると、話し合ったことがある割合は、「佐久地域」(50.9%)、「木曾地域」(50.0%) で5割以上と、他の地域よりもやや高くなっている。

同居家族人数別にみると、「2人」(53.3%) で約5割と、他よりも高くなっている。



問 35 問 34 でお伺いした、受けたい医療や受けたくない医療について、書面にしておくことについてどう思いますか。

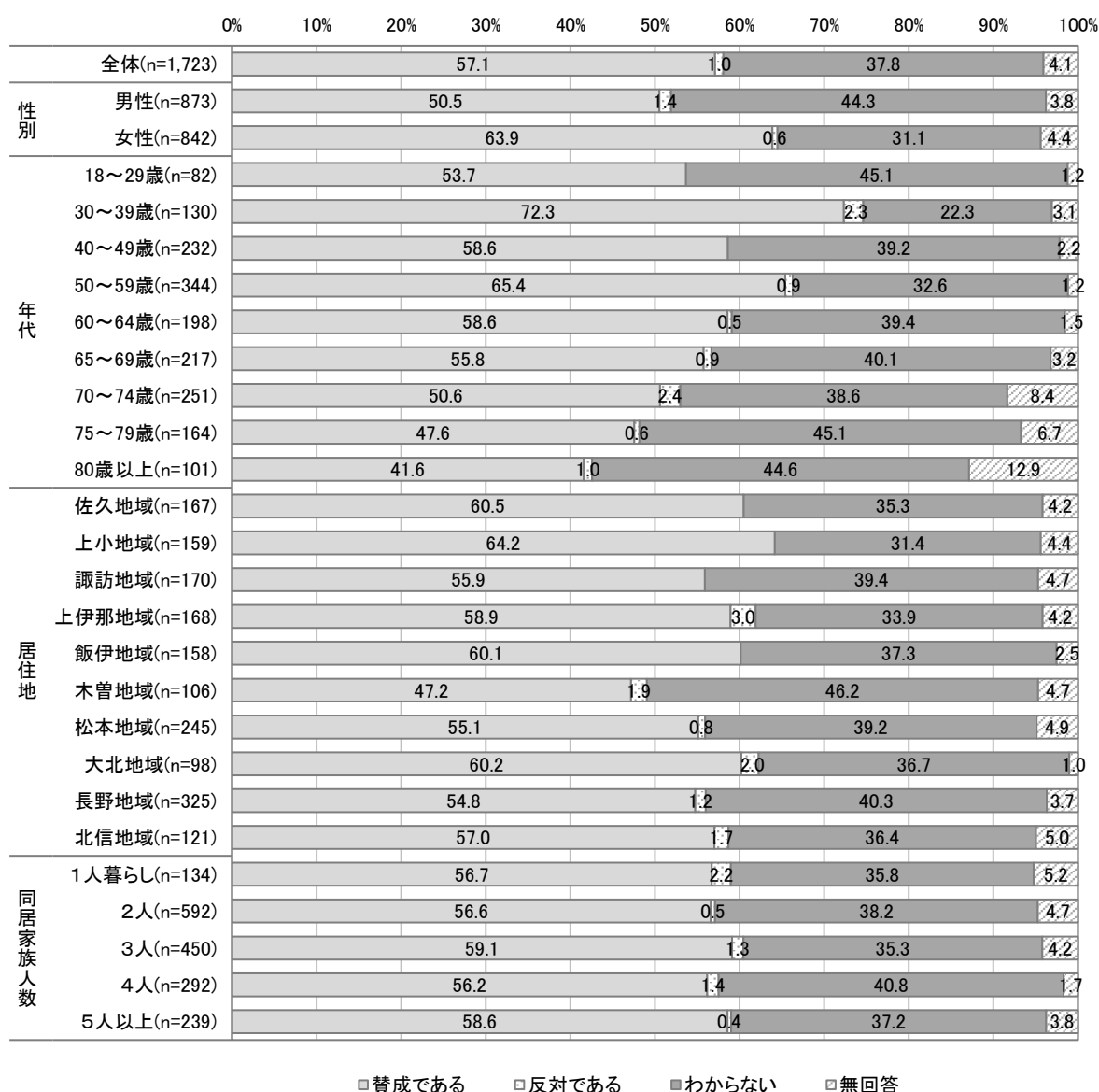
受けたい医療や受けたくない医療についての書面化は、「賛成である」(57.1%)が約6割となる。一方、「わからない」(37.8%)は約4割となり、「反対である」は1.0%となる。

性別にみると、「賛成である」は、「女性」(63.9%)が「男性」(50.5%)よりも高くなっている。

年代別にみると、「賛成である」は、74歳以下で5割を超えている。特に、「30～39歳」(72.3%)では7割を超えている。一方、75歳以上では4割台となっているなど、年代が上がるほど「わからない」方が多くなる傾向がみられる。

居住地別にみると、「賛成である」は、「佐久地域」(60.5%)、「上小地域」(64.2%)、「飯伊地域」(60.1%)、「大北地域」(60.2%)で6割を超えている。

同居家族人数別にみると、差は少ないといえる。



問 36 あなたは将来、自分が最期を迎える場所として、医療機関（病院や診療所）と、居住の場（自宅やサービス付き高齢者向け住宅など）、介護保険施設（特別養護老人ホームなど）のどこを希望しますか、現時点のお考えに最も当てはまるものを、次の中から1つお選びください。

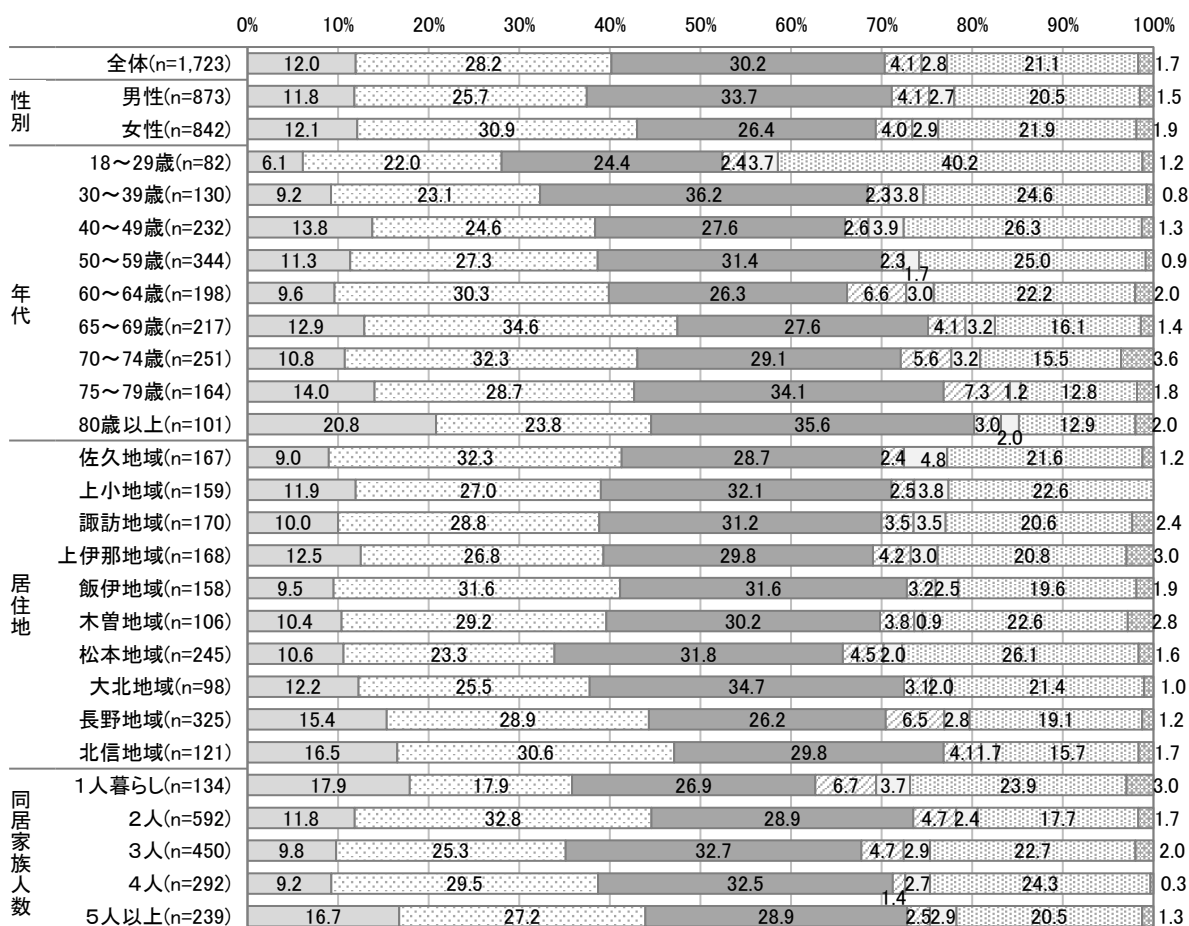
自分が最期を迎える場所は、「居住の場で最期を迎えたい」（30.2%）が3割と最も多い。次に、「居住の場や介護施設等で療養して、症状が悪化した場合には医療機関に入院して最期を迎えたい」（28.2%）、「わからない」（21.1%）、「医療機関に入院して最期を迎えたい」（12.0%）と続いている。

性別にみると、「居住の場で最期を迎えたい」は、「男性」（33.7%）が「女性」（26.4%）よりもやや高くなっている。

年代別にみると、「居住の場で最期を迎えたい」は、「30～39歳」（36.2%）、「50～59歳」（31.4%）、「75～79歳」（34.1%）、「80歳以上」（35.6%）で3割を超えている。また、「80歳以上」では、「医療機関に入院して最期を迎えたい」（20.8%）で2割を超えている。

居住地別にみると、「居住の場で最期を迎えたい」は、いずれの地域でも3割前後となるものの、「大北地域」（34.7%）で他の地域よりもやや高くなっている。

同居家族人数別にみると、「居住の場で最期を迎えたい」は、「3人」（32.7%）、「4人」（32.5%）でやや高くなっている。



- 医療機関に入院して最期を迎えたい
- 居住の場や介護施設等で療養して、症状が悪化した場合には医療機関に入院して最期を迎えたい
- 居住の場で最期を迎えたい
- 介護保険施設で最期を迎えたい
- その他
- わからない
- 無回答

・その他の回答について（抜粋）

問5 あなたが、もし体調が少し悪くて医師にみてもらいたいときどうしますか。

- ・かかりつけの病院・診療所へ行く
- ・症状により、診療所と総合病院を使い分ける

問8 あなたが、オンライン診療を利用しない理由はなんですか。

- ・オンライン診療という選択肢が思いつかなかった
- ・オンライン診療のやり方が分からない
- ・どこの医療機関がオンライン診療を実施しているか分からない

問11 「原則として紹介状が必要な医療機関」に紹介状を持たずに初診で受診した理由はなんですか。

- ・近くに良い医療機関がない
- ・紹介状を書いてもらえなかった

問14 過去1年間に、あなたやご家族が、休日や夜間など、医療機関が診察していない時間帯に急な病気になったとき、どのように対応しましたか。

- ・#8000 など相談窓口で電話し(受診した)
- ・オンライン診療を受けた

問16 医療に関する相談窓口について、どのようにお知りになりましたか。

- ・自治体や医療機関の広報誌で見た
- ・学校や保育園の配布物で見た

問19 かかりつけの医師を持たない理由はなんですか。

- ・引っ越したから
- ・病院内であれば、どの医師でもいいから

問22 かかりつけの歯科医師を持たない理由はなんですか。

- ・歯科医院に行く時間の確保が難しい
- ・歯が痛くなったら行けばよいと思うから
- ・費用がかかるから

問24 かかりつけの薬局に当てはまるものをお答えください。

- ・医療機関の院内薬局でもらっている

問25 かかりつけの薬局を持たない理由はなんですか。

- ・受診した医療機関の院内薬局または近隣の薬局でもらっている
- ・どの薬局でも同じだと感じている

問26 あなたが医療機関を探す場合、どのように探していますか。

- ・知人、職場のつて
- ・電話帳

問 28 医療機関での病気の診察や治療に関して、どのようなことを望みますか。

- ・診療費の内訳を詳しく説明してほしい
- ・最新の医療機器を導入してほしい

問 30 あなたが比較的軽い病気やけがで、診療所（医院・クリニック）を受診しようと考えた時、何か困ることはありますか。

- ・夜間、休日などに受診ができない
- ・予約が取りにくい

問 31 あなたのお住まいの地域で、もっと増えるとよい、充実してほしいと感じている診療科はありますか。

- ・総合診療科、頭痛外来、形成外科、漢方・自然療法など

問 33 新型コロナウイルス感染拡大後、受診回数が減った理由はなんですか。

- ・マスクや手洗いのおかげであまり病気にならなかった

問 34 ご自身やご家族の死が近い場合に受けたい医療や受けたくない医療について、どのくらい話し合ったことがありますか。

- ・ひとり身なので話し合う相手がいない
- ・話題にするのが難しい

問 36 自分が最期を迎える場所として、どこを希望しますか。

- ・どこでもいい
- ・家族に任せたい
- ・家族に負担がかからない場所

・医療に関する自由回答

【医療機関について】（約 100 件の回答から抜粋）

- ・日本の医療は細分化しすぎていると思う。もっと身体全体を診ることのできる医者、漢方、自然療法を取り扱える医者が増えたらいいなと日頃感じている。
- ・病気の症状等を説明してくれる専門部署が欲しい。
- ・居住地区内に適切な専門診療科がない。地域の大病院に集約しすぎていると思う。
- ・土日、夜（夕方）に受診できる医院が増えて欲しい。
- ・救急車で運ばれるくらいの病気になった時、地域で対応できる診療科やドクターがいるのか心配な時がある。
- ・緩和ケアと並行して、心のケアや医療、生活相談が出来る窓口に積極的につなげてほしい。
- ・専門の医療機関は遠く、持病（難病）のための通院時間が長い。地域の開業医の先生も高齢化してきているため、身近に受診できる医療機関が無くならないか心配。移動手段も限られ、車の運転ができなくなると、より受診しにくくなることも気がかり。
- ・医師との関係を深める機会がなく、気軽に相談できない。ちょっとしたことを電話で気軽に相談できる専門の機関が常時あるといいと思う。
- ・かかりつけ医を持ちましようと言われるが、眼科や皮膚科等々が近くにない場合はどうすればいいのか疑問。近くにないのに、紹介状が必要な所へかかる場合にも料金がかかるのは困ると思う。内科等で相談して紹介状を書いてもらうことが可能なのか等々、かかりつけ医に関する情報が少ないと思う。
- ・地元の病院に診察してもらいたいので、地域の医療水準を維持してほしい。
- ・過疎地域に住んでいるが、内科以外でかかりたい診療科（眼科とか耳鼻科等）が遠い。年を取り病院に行くのが大変である。
- ・在宅医療に対応してくれる医療機関がない。住んでいる地域では、死亡診断書を頼める医師がおらず、自宅での看取りが出来ない。
- ・コロナの中で、自己管理の大切さと医療現場の難しさを痛感した。半面、地域病院の冷たさも強く感じた。

【医師について】（約 30 件の回答から抜粋）

- ・スーパードクターを増やしてほしい。
- ・親身になって話を聞いてくれる医師もいれば、あまり話も聞かず、簡単に判断を下す医師もいる。
- ・患者（特に高齢者や子ども）の気持ちに寄り添ってくれる医師に診てもらいたい。行きたくて行くわけでもなく、不安でいっぱい病院へかかるのに、パソコンばかり見ている医師にあたるのがっかりする。

【診療について】（約 50 件の回答から抜粋）

- ・家族が重病になったとき、医師の話を聞けていない部分があった。記録を見てみると、医師が「今後どうしたいですか？」と言ってくれているのに治療の事ばかり気を取られていて、家族と最期の時間をどう過ごすかよく考えられなかった。

- ・医療機関にかかる機会がなくかかりつけ医がいないため、具合が悪くなった時、近くの医療機関がかかりつけ医ではなくても診察してくれるか不安。
- ・医師は症状や治療の説明をする時、専門用語を使うことが多いが、患者には理解しにくい。
- ・(知的) 障害のある子供について、意思疎通が難しく、どこが痛いのか等体調変化に気づきにくいいため、受診した時は念入りに診てもらえると嬉しい。
- ・不安な事をしっかり説明してくれる先生に診てもらいたい。治療方法など、自分で納得のいく方法を選択したい。
- ・セカンドオピニオンについて、どのような手順で他の医療機関に相談すれば良いのか分からない。

【薬について】(約 10 件の回答から抜粋)

- ・高齢の親を見ていると、とにかく薬の量が多すぎると感じる。
- ・処方箋をもって薬局に行くと、医師のように色々と聞いてくる薬剤師がいる。医師にしか話したくないことがあるし、他の患者もいる中で、個人情報話すことに抵抗がある。
- ・仕事の都合などで頻繁に医療機関に行かれないので、薬を多めに出してほしい。

【予約・待ち時間について】(約 50 件の回答から抜粋)

- ・オンライン予約しても順番を取れるだけで、診察の開始時間が不明なのは不便。
- ・付き添いで近くの病院に行くことがあるが、診療、投薬、会計それぞれで待ち時間が長いと思う。
- ・患者・医療従事者双方の負担にならないような仕組み(呼び出し端末の貸出しや診察順の携帯電話への自動案内システム等)の整備をして欲しい。
- ・歯科医のネット予約が広がってほしい。

【新型コロナウイルス感染症について】(約 15 件の回答から抜粋)

- ・新型コロナが流行して、発熱の原因がコロナか否かしか確認されない。コロナでなかった場合の原因追求がされず、ただ熱冷まして対応されることが多かった。
- ・コロナ前と比べ、子どもを連れて受診する事をためらう事が増えた。コロナルールみたいな物があり、熱が出ただけでも他家族が登校、登園を控える事も多く、勉強が遅れてしまう事が不安。
- ・コロナの面会制限で、具合が悪くなった家族を励ますこともできない。せめて短時間でも面会できるようになってほしい。

【行政について】(約 40 件の回答から抜粋)

- ・#8000 は困った時(赤ちゃんの時などの夜間)繋がらない場合が多いので、改善してほしい。
- ・医療マップの様なものを作ってほしい。医療機関が得意なこと、力を入れていることなど知りたい。
- ・子どもの頃から医療系に進みたいと希望している子ども達が学べる中学や高校をもっと増やしてほしい。国で適切な援助をし、貧富の差があっても進学できるようにしてほしい。

- ・近くに医療機関がない場所に住んでいたら仕方ないと思うべきか。ライフライン等の整備など、してほしいと思っいていいのか。
- ・困った時に診てくれる病院を案内してくれる窓口がほしい。
- ・医療の問題と言えば、医療費負担増加が大きな問題だと思う。設問が全くないのは残念だ。
- ・医師や医療スタッフが長時間労働にならない体制や、仕組みを構築してほしい。

【医療 DX について】（約 25 件の回答から抜粋）

- ・ネット社会では、ついていられない人達は取り残されていかないか不安。予約、マイナンバーカード等複雑な体制になっていく中、痛い所があっても我慢していることがある。
- ・ホームページのない医療機関は受診しにくい。同じ診療科でも医師によって得意分野があると思うので、自分の症状に合わせて病院選びができるように情報を発信して欲しい。
- ・仕事を休むことが出来ない者にとって、受診する事自体とてもハードルが高い状況。今後オンライン診療等が普及してもっと気軽に受診出来るようになれば良いと思う。
- ・診療の予約や混雑状況をインターネットやLINEなどで利用できるようになれば便利だと思う。

【医療費について】（約 50 件の回答から抜粋）

- ・子供の診療一回につき 500 円は子供が何人もいると負担が大きい。薬局と合わせるとなおさら。無料の自治体も多いので、検討してほしい。
- ・インフルエンザの予防接種の料金を子供だけでも値段を下げてほしい。
- ・大手病院へ行くのに紹介状がなければ、7,000 円取られるのが理解できません。
- ・医療費が高いので我慢してしまう事がある。コロナウイルスの予防接種は無料で継続してほしい。
- ・医療費や介護施設の利用が色々高くなってきて、年金だけではとても大変。

【その他】（約 130 件の回答から抜粋）

- ・医療は本当に大変な仕事だと思う。日々、業務に当たっている医療従事者に感謝している。少しでも報われる体制であればいいと思う。
- ・日本の医療はとても充実していると思う。
- ・セルフメディケーションの意識を高めて、あえて受診せずとも、近くの薬局、薬店で薬を購入するなど、日頃から予防、養生に努める大切さを広めてほしい。
- ・今は運転ができるから良いが、この先出来なくなった時、駅は遠いし、今でも自分が具合悪くなった時不安になる（去年自分がコロナになった時本当に困った）。高熱で咳、吐き気、頭痛の中、自分で運転して病院に行くのは本当に辛かった。
- ・病院を選ぶ時に人の口コミで決める事が多い。その中で先生の評判だけでなく、受付の方の評判で病院が決められてしまう事が勿体無いなど感じる事がある。
- ・老々介護の時代、最期だけでも家族の負担を減らすため、本当に最期の時は医療機関（看取りの施設）で診てもらえたら嬉しい。昼夜問わず見ているのは大変。
- ・寝たきりにならないように身体を動かしていきます。子どもに負担がかからないようにしたい。

- ・平均寿命と健康寿命の差が10年以上となり、医療費や介護費用が家計を圧迫し、安心して老後を迎えられるのか不安。